

Goldfire Server 12.5

インストールの手引き

サイバネットシステム株式会社

ITソリューション事業部

Goldfireサーバーのインストールには、Goldfire Server用1枚のDVDまたはインストールファイル(拡張子. iso)が必要です。

Goldfire サーバーのインストールに関する詳細は、Goldfire Server Disc内の各構成ガイドを参照ください。ユーザーデータベースは、本バージョンよりMicrosoft SQL Serverのホスティングのみサポートとなりましたので、以下ガイドを参照してください。

¥Components¥Common¥GF Server System Configuration (MS SQL).pdf

必要なコンポーネントや設定の詳細につきましては、Goldfire Server Disc内にある下記ガイドを参照ください。

¥Components¥Common¥GF Server Preparing to Install.pdf

※ インストール完了後は、Windows の「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」>「Goldfire Server」から上記ファイルを開くことができます。

※ Goldfire サーバーは複数台構成が可能です。Goldfire アプリケーションサーバーと Goldfire 索引付けサーバーを別々のサーバーマシンにセットアップすることにより、パフォーマンスが向上します。複数台構成の詳細は上記ドキュメントをご参照いただくか、またはお問い合わせください。

インストールの詳細に関しては、上記の各ドキュメントをご覧ください。

INDEX

1.	インストール前のご注意	4
2.	インストールする構成の選択	6
3.	.NET FRAMEWORK 4.8 のインストール	7
4.	ASP.NET CORE 3.1 HOSTING BUNDLEのインストール	9
5.	OLE DB DRIVER 18 FOR SQL SERVERのインストール	11
6.	GOLDFIREサーバー（アプリケーション）のインストール.....	14
7.	GOLDFIREサーバー（インデックス）のインストール	33
8.	GOLDFIRE ADMINISTRATOR へのログイン	40
9.	インストール後の設定	42
10.	GOLDFIRE ADMINISTRATOR 12.5 ブラウザ設定	45

本書の内容について

本ガイドではGoldfireサーバーのインストール手順について記述しています。Goldfireサーバーのインストール手順は、Goldfireサーバーの構成やユーザーディレクトリの種類によって異なります。本ガイドでは、以下のような一般的な設定の場合のインストール方法について説明します。

- **本書で説明している設定**

- シングルサーバー構成およびマルチサーバー構成
- ユーザーデータベースのホスティングをMicrosoft SQL Serverを用いて行う
- Goldfireクライアントのユーザーアカウントを定義するユーザーディレクトリのシステムに「NTドメインまたはアクティブディレクトリ（混合モード）」を使う

その他の構成に関しては、本書P. 2において説明いたしました各ガイドをご参照下さい。

1. インストール前のご注意

インストールの前に以下の点にご注意下さい。

1. インストール作業を行うアカウントについて

インストール作業は、インストールするサーバーに管理者権限を持つドメイン所属アカウントで行って下さい。このアカウントが「Goldfireアプリケーションサービスアカウント」(GSAと略)となります。

ユーザーにドメインアカウントを利用する場合、GSAがドメインコントローラにアクセス可能であることが必要です。さらに、Goldfireで提供する特許および文献等のコンテンツを検索するためにGSAがインターネットにアクセスできる必要があります。

このアカウントのパスワードを変更する際にはModify IHS Goldfire Configurationツールを利用してGoldfireに反映して下さい。パスワードの変更がないことを推奨します。

アプリケーションサービスアカウントは以下のサービスとプロセスを実行します。

- すべてのGoldfireサービス
- すべてのDCOMプロセッシングコンポーネント

2. Microsoft .NET Framework 4.8 のインストール

Goldfireサーバーのインストールを行う前に、.NET Framework 4.8以降バージョンのインストールが完了している必要があります。ただし、SQL Server 2014より前のバージョンをご利用の場合、.NET Framework 3.5が必要となります。

詳細手順は、本書「3.NET Framework 4.8 のインストール」をご覧ください。

3. ASP .NET Core 3.1 Hosting Bundle のインストール

Goldfire サーバー 12.0より、ASP .NET Core のインストールが完了している必要があります。詳細手順は、本書「4ASP.NET Core 3.1 Hosting Bundleのインストール」をご覧ください。

4. OLE DB Driver 18 for SQL Server のインストール

Goldfire サーバー 12.0より、OLE DB Driver 18 for SQL Server のインストールが完了している必要となります。詳細手順は、本書「5OLE DB Driver 18 for SQL Serverのインストール」をご覧ください。

5. 必要なコンポーネントのチェック

GoldfireサーバーマシンにGoldfireサーバーのインストールを行う際、必要なコンポーネントのチェックが行われます。必要なコンポーネントがサーバーマシンにインストールされていない場合、このチェック以降のインストールが継続できなくなりますのでご注意ください。

必要なのは以下のコンポーネントです。

- Microsoft Internet Explorer (バージョン11 (32ビットバージョンのみ))
- Microsoft Internet Information Server (IIS) (バージョン8.x、10)
※ 12.1より IISコンポーネント：「Application Initialization」 の追加が必要です。
- Microsoft .NET Framework (バージョン 4.8)
- ASP.NET Core 3.1 Hosting Bundle
- OLE DB Driver 18 for SQL Server

【ご注意】 必要なコンポーネントや設定の詳細につきましては、Goldfire Server Disc内にある下記ガイドを参照下さい。(本書P.2で紹介したpdfファイル)
¥Components¥Common¥GF Server Preparing to Install.pdf

6. メールアカウントの用意

Goldfireサーバーがメールを送受信するための、e-mailアカウントを用意して下さい。

7. インストール構成の確認

- Microsoft SQL Serverがインストールされ、実行できていることを確認してください。
- Goldfireをインストールする際、インターネットオプションの設定を反映します。
インターネットに接続するためにプロキシサーバーに接続する必要がある場合には、プロキシサーバーのアドレスや設定方法についてネットワーク管理者に確認してください。
- Goldfireでドメインのユーザー認証する場合、連携するNTドメインまたはActive Directoryのドメイン名を確認してください。
- すべてのWindowsプログラムを終了してください。
- Server Diskの内容をサーバーHDDにコピーしてください。

2. インストールする構成の選択

Goldfireサーバーはアプリケーションノードとインデックスノードで構成しており、利用するユーザー数や検索対象とする文書数に応じてシングルサーバー構成かマルチサーバー構成かを決定する必要があります。以下にサーバー構成毎に実施すべき手順を記します。

構成	手順
シングルサーバー構成 アプリケーションノードとインデックスノードを1台のサーバーに搭載	<u>3 .NET Framework 4.8 のインストール</u> <u>4 ASP.NET Core 3.1 Hosting Bundleのインストール</u> <u>5 OLE DB Driver 18 for SQL Serverのインストール</u> <u>6 Goldfireサーバー（アプリケーション）のインストール</u> <u>8 Goldfire Administrator へのログイン</u> <u>9 インストール後の設定</u>
マルチサーバー構成 アプリケーションノードとインデックスノードをそれぞれサーバーにわけて搭載 (1台目にアプリケーションノードとインデックスノードを搭載することも可能)	アプリケーションサーバー) <u>3 .NET Framework 4.8 のインストール</u> <u>4 ASP.NET Core 3.1 Hosting Bundleのインストール</u> <u>5 OLE DB Driver 18 for SQL Serverのインストール</u> <u>6 Goldfireサーバー（アプリケーション）のインストール</u> <u>7 Goldfire Administrator へのログイン</u> <u>9 インストール後の設定</u> インデックスサーバー) <u>3 .NET Framework 4.8 のインストール</u> <u>7 Goldfireサーバー（インデックス）のインストール</u>

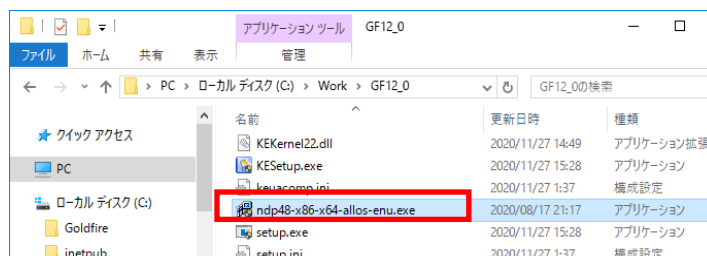
3. .NET Framework 4.8 のインストール

.NET Framework 4.8 がインストール済の場合は本節をスキップしてください。 .NET Framework 4.8がインストールされているかどうかの確認方法については、下記の公式ページ内をご参照ください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/framework/migration-guide/how-to-determine-which-versions-are-installed>

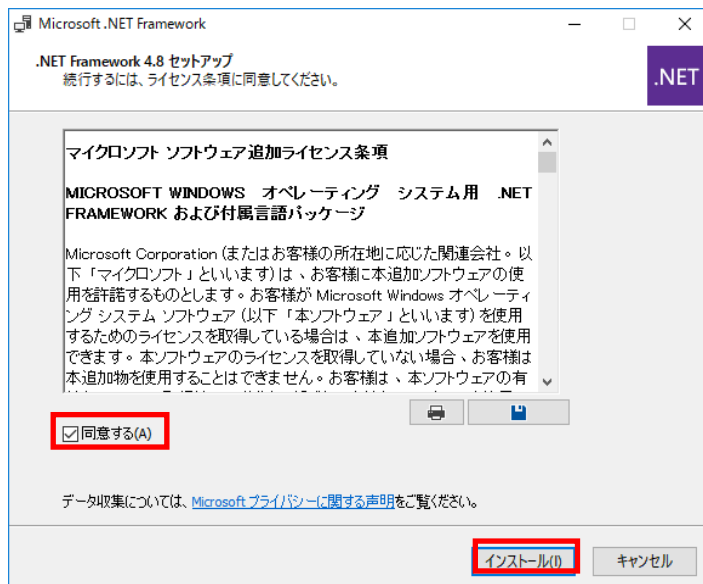
1. .NET Framework 4.8 インストーラの実行

.NET Framework 4.8がインストールされていない場合は、Goldfireサーバーのセットアップ前にインストールメディアに収録されている ndp48-x86-x64-allos-enu.exe (右図) をダブルクリックしてください。



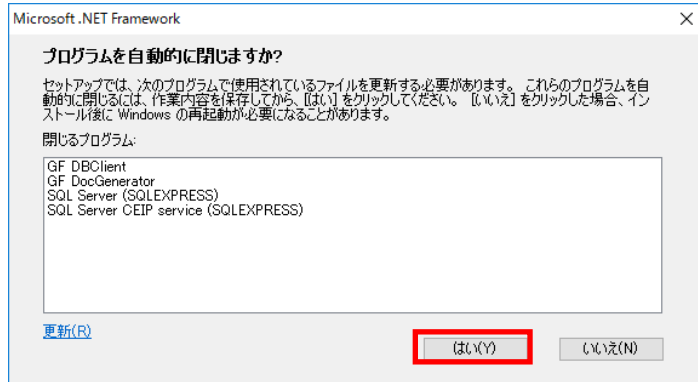
2. インストールの開始

「同意する」にチェックを入れ、【インストール】をクリックします。



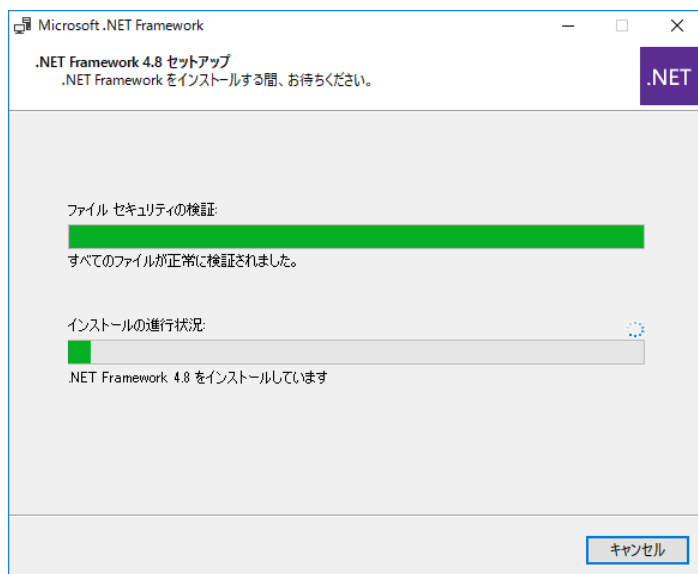
3. Goldfire関連プログラムの確認

Goldfire関連プログラムに関する確認画面が表示される場合は、
【はい】をクリックします。



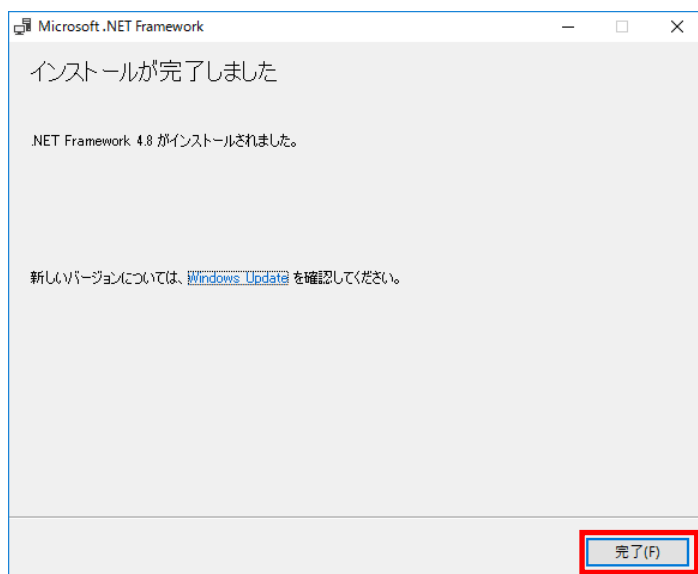
4. .NET Framework 4.8のインストール開始

.NET Framework 4.8のインストールが開始されます。



5. .NET Framework 4.8のインストール終了

.NET Framework 4.8の完了画面が表示されたら、【完了】をクリックして終了します。



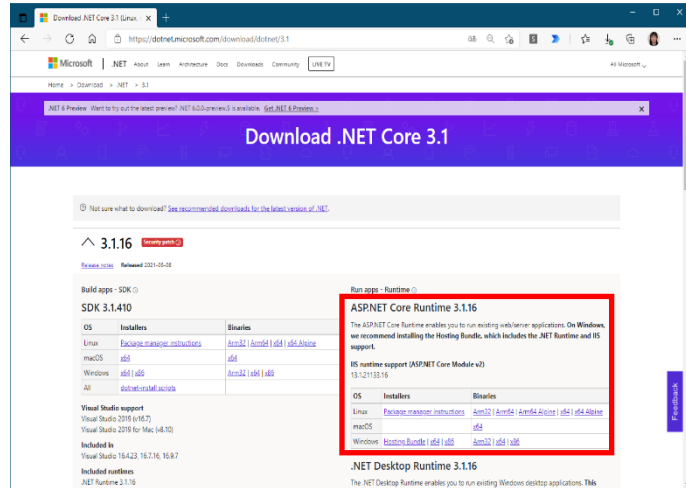
4. ASP.NET Core 3.1 Hosting Bundleのインストール

ASP.NET Core 3.1 Hosting Bundle がインストール済の場合は本節をスキップしてください。

1. ASP.NET Core 3.1のダウンロードページ

ASP.NET Core 3.1 のダウンロードページにアクセスします。

<https://dotnet.microsoft.com/download/dotnet-core/3.1>



2. インストーラのダウンロード

「ASP.NET Core Runtime 3.1.xx」(右図)の表の中から、が表示されますので、**【Hosting Bundle】**をクリックし、適当なフォルダにインストーラを保存します。

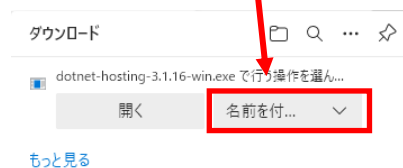
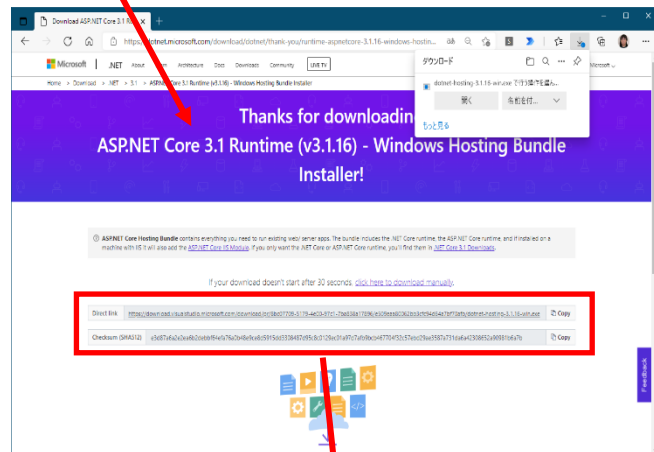
※ ダウンロードが始まらない場合は、ページ中央の「Direct link」をクリックしてください。

ASP.NET Core Runtime 3.1.16

The ASP.NET Core Runtime enables you to run existing web/server applications. **On Windows, we recommend installing the Hosting Bundle, which includes the .NET Runtime and IIS support.**

IIS runtime support (ASP.NET Core Module v2)
13.1.21133.16

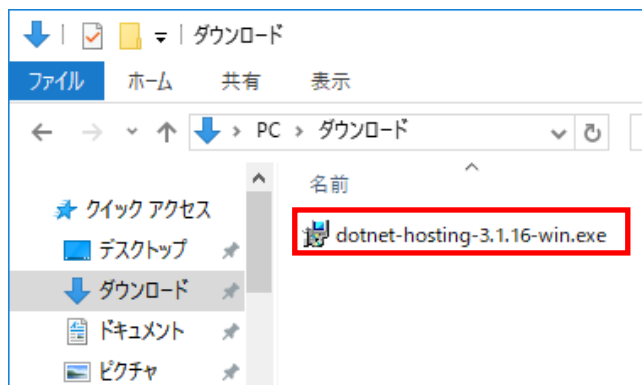
OS	Installers	Binaries
Linux	Package manager instructions	Arm32 Arm64 Arm64 Alpine x64 x64 Alpine
macOS		x64
Windows	Hosting Bundle x64 x86	Arm32 x64 x86



3. ASP.NET Core 3.1のインストール

ダウンロードしたASP.NET Core 3.1 インストーラ（dotnet-hosting-3.1.xx-win.exe）をダブルクリックすると、セットアップウィザードが表示されます。

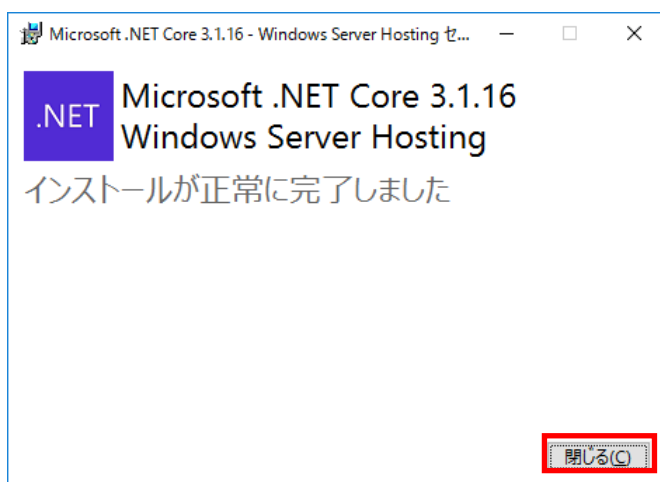
セットアップウィザードに従ってインストールを行ってください。



4. ASP.NET Core 3.1のインストールの完了

インストールが完了すると、完了画面が表示されます。

【閉じる】をクリックして終了します。



5. OLE DB Driver 18 for SQL Serverのインストール

OLE DB Driver 18 for SQL Server がインストール済の場合は本節をスキップしてください。

1. OLE DB Driver 18 for SQL Server のインストール状況確認

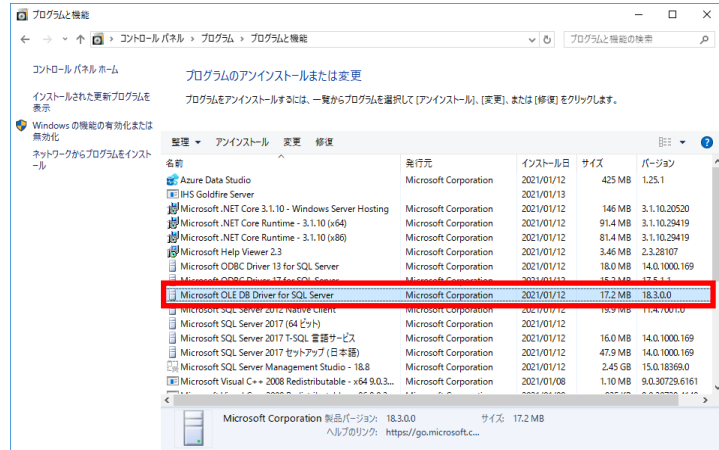
スタート画面の[コントロール パネル]-[プログラム]-[プログラムと機能]をクリックします。

[OLE DB Driver for SQL Server]の項目を探し、バージョン番号が18以上(18.x.x.x)であるかどうかを確認します。

項目のバージョン番号が18.xxとなっている場合は、本節はスキップしてください。

※ 最新のSQL Server Management Studio (SSMS 18.8i以降)をインストールしている場合は、SSMSをインストールした際に、OLE DB Driver 18がインストールされます。

※ OLE DB Driver for SQL Serverの項目がない、または、18よりバージョン番号が小さい場合は、以下の手順でインストールください。



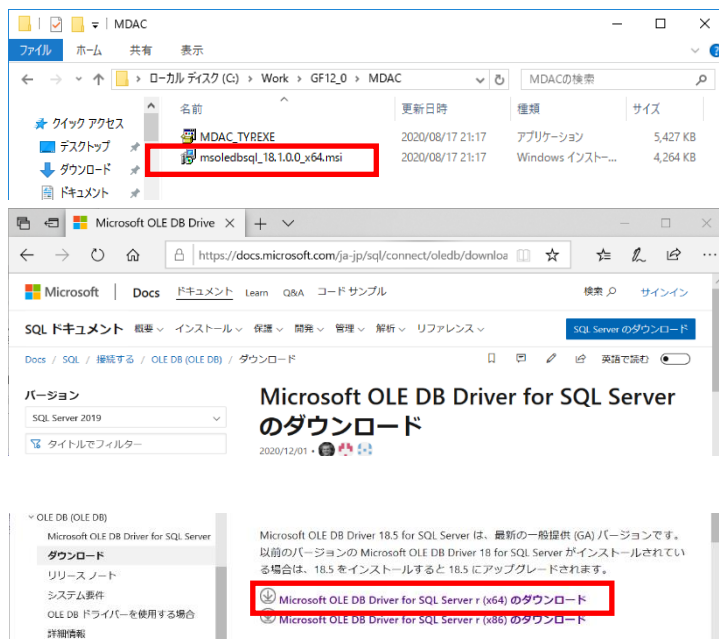
2. OLE DB Driver 18 for SQL Server インストーラの起動

Goldfire 12.0のServer Diskをコピーしたフォルダ内から下記ファイルをダブルクリックします。

<Server Diskのコピーフォルダ>¥ MDAC¥ msoledbdriver_18.1.0.0_x64.msi

※ OLE DB Driver 18 for SQL Serverのダウンロードページからインストーラ: msoledbdriver.msi (x64)のダウンロードが可能です。ダウンロード後、msiファイルを実行してください。

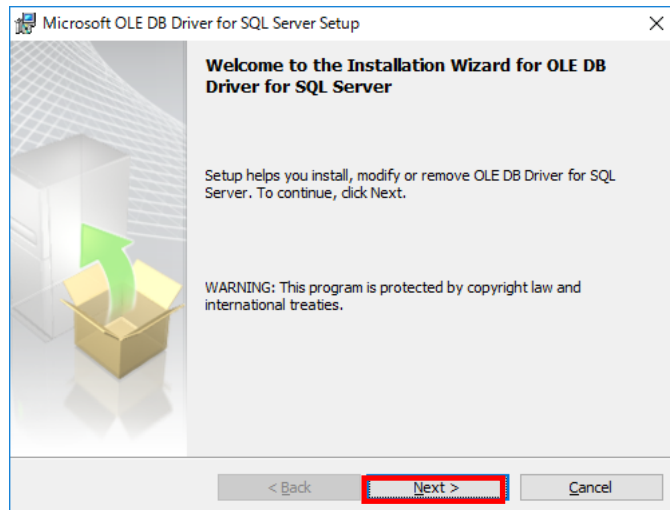
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/connect/oledb/download-d-oledb-driver-for-sql-server?view=sql-server-ver15>



3. OLE DB Driver 18 for SQL Serverインストールの開始

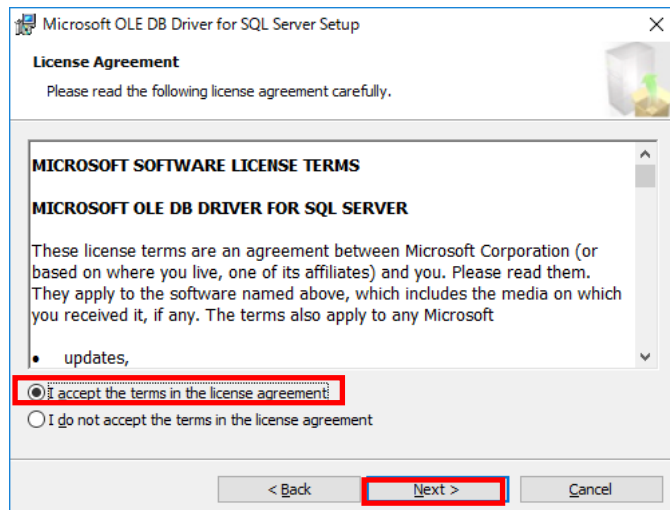
セットアップウィザードに従ってインストールを行ってください。

【Next>】をクリックします。



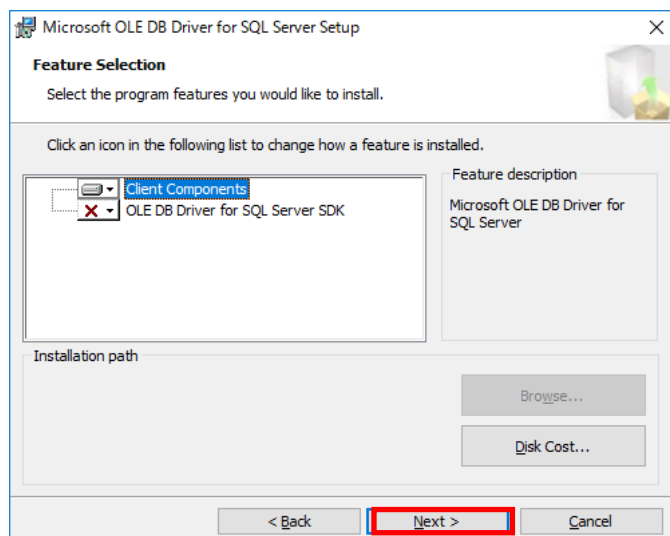
4. OLE DB Driver 18 for SQL Server ライセンスへの同意

ライセンスに同意して、【Next>】をクリックします。



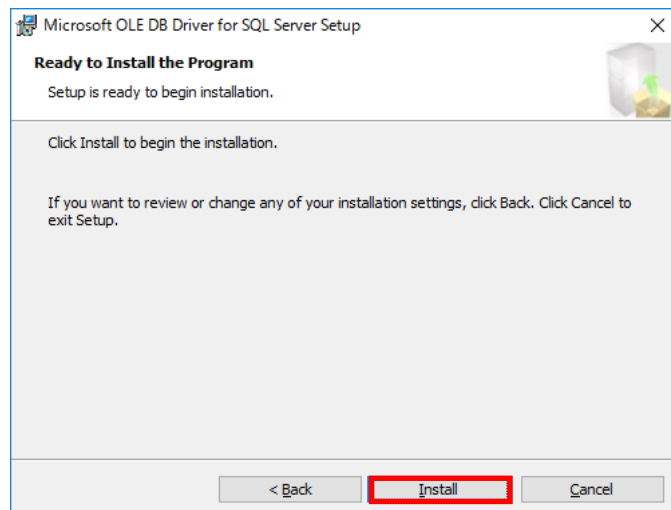
5. インストール構成の選択

デフォルト設定にて、【Next>】をクリックします。



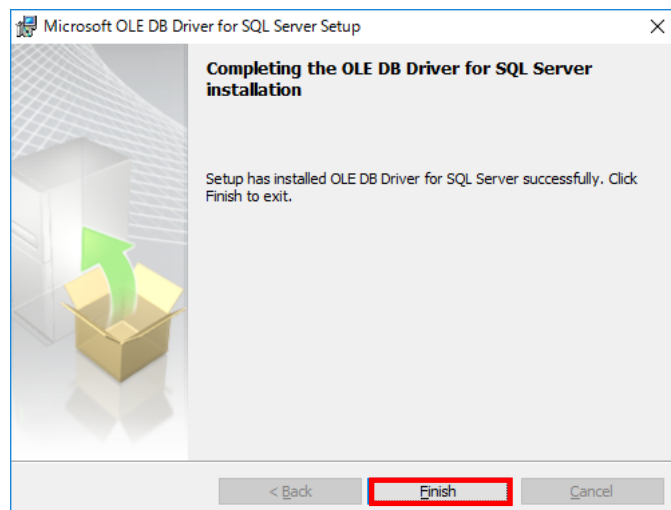
6. インストールプログラムの準備

【Install】をクリックします。インストールが開始されます。



7. OLE DB Driver 18 for SQL Server のインストール完了

インストール完了画面が表示されたら、【Finish】をクリックします。



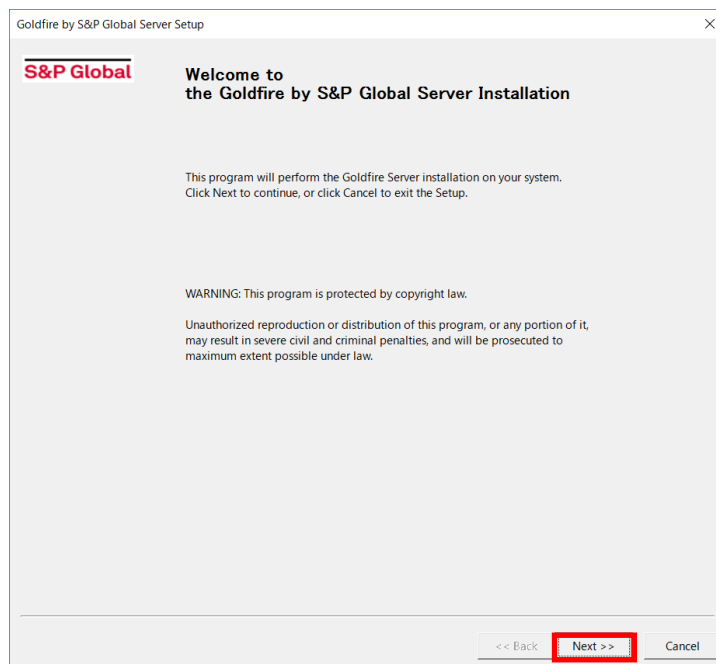
6. Goldfireサーバー（アプリケーション）のインストール

1. ようこそGoldfire Serverのインストールへ

インストールプログラム内の Setup.exeをダブルクリックします。

セットアップ画面（右図）が表示されますので、【Next>>】をクリックします。

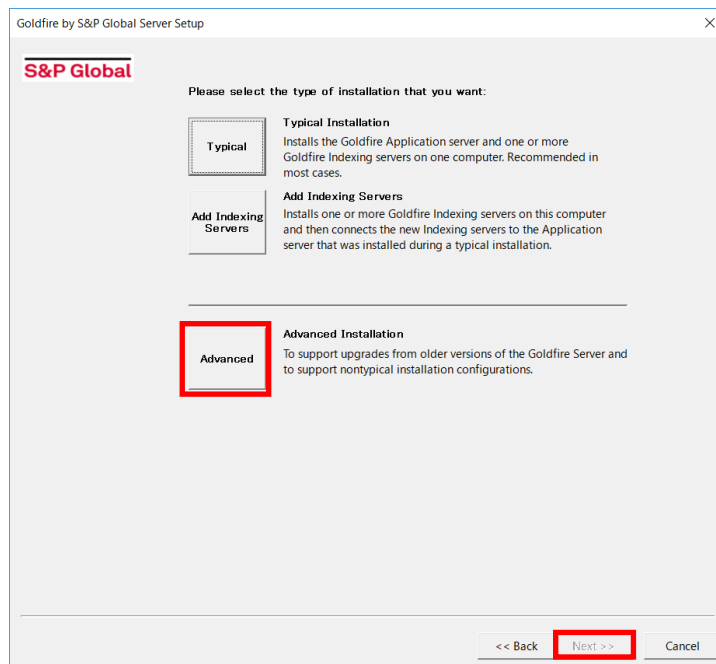
※ メディアの内容をサーバー HDD にコピー後、Setup.exe を実行することを推奨します。



2. インストールの種類を選択

【Advanced】をクリックします。

※ その他のインストールの種類については、本書の P.2 で紹介したドキュメントファイルを参照してください。



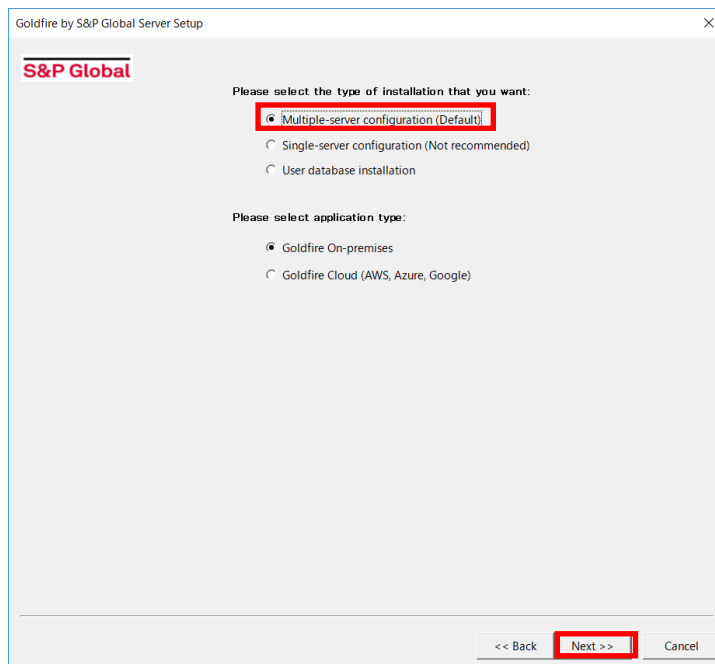
3. 構成を選択

【Multiple-server configuration】を選択し、【Next>>】をクリックします。

(Single構成でもDefaultを選択すること)

application type :

- ・ Goldfire On-premises
通常のサーバー
- ・ Goldfire Cloud
AWS, AzureまたはGoogle クラウド環境



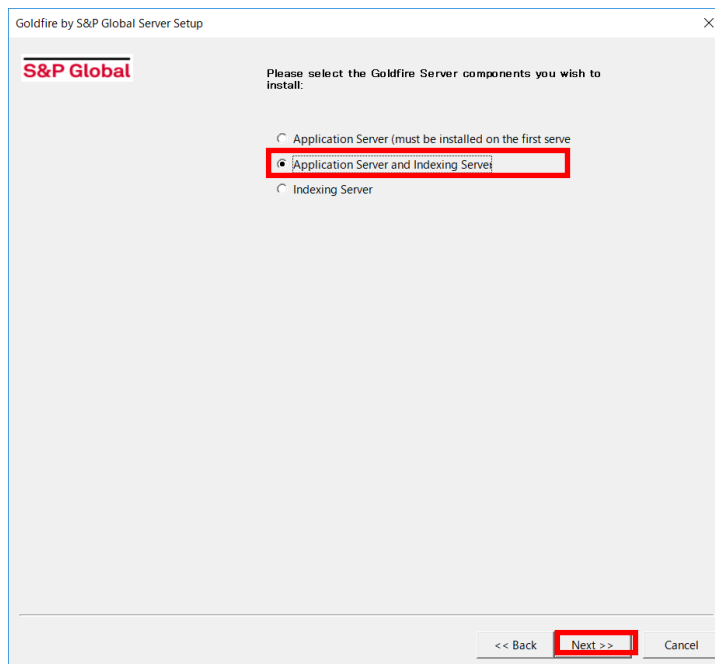
4. インストールするサーバー種類を選択

インストールする構成として、【Application Server and Indexing server】を選択し、

【Next>>】をクリックします。

注意 :

Application Server(must be installed on the first server)を選択する場合、必ずIndexing Serverを用意すること

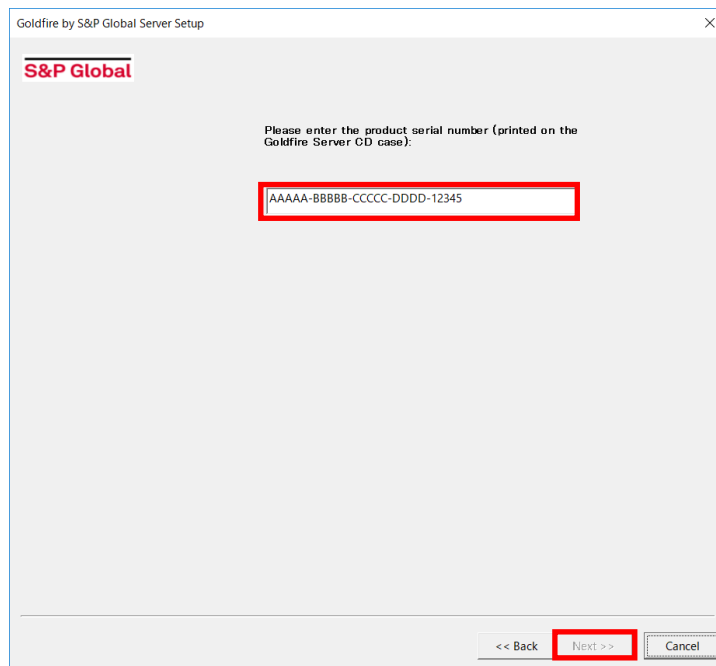


5. シリアルナンバーの入力

29桁（ハイフンを含む）のシリアルナンバー※を入力してください。

入力後【Next>>】をクリックします。

※ シリアルナンバーは、IHS Markit社から送信された、ライセンスファイルが添付されているEメールに記載されています。
このシリアルナンバーとライセンスが一致しないと後ほどライセンスをインポートできなくなり、再インストールが必要となりますのでご注意ください。

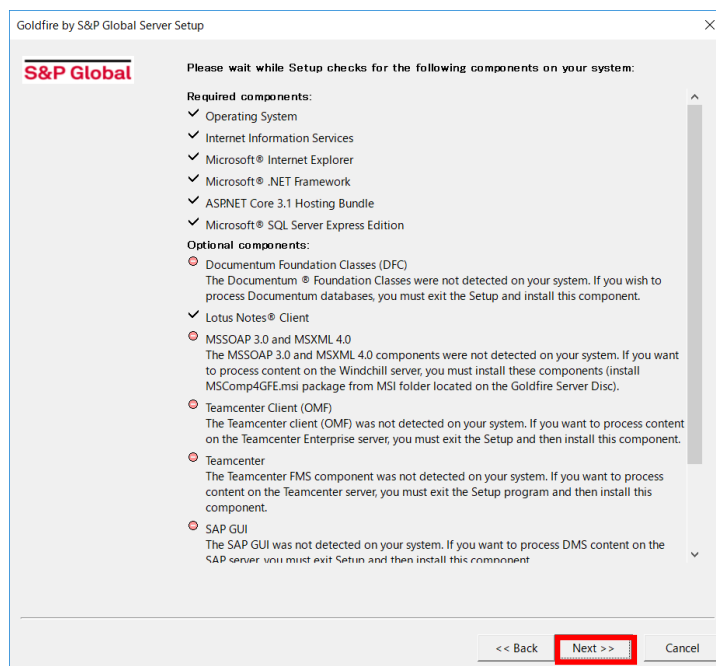


6. 必要なコンポーネントの設定チェック

サーバーマシン内に必要なコンポーネントがインストールされているかどうかのチェックが行われます。

チェック結果を確認し、【Next>>】をクリックします。

※ コンポーネントの不足があれば、インストールは終了します。その場合には必要コンポーネントをインストール後、再度インストールを行ってください。



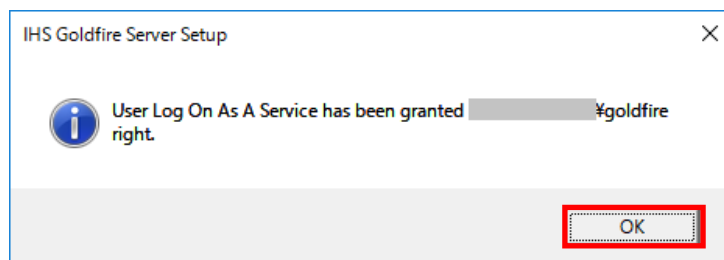
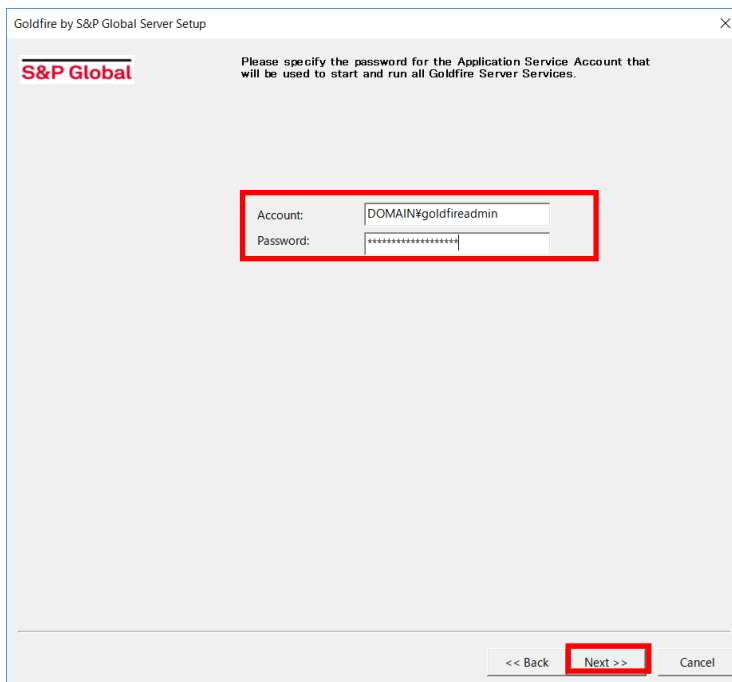
7. アプリケーションサービスアカウントのパスワードの設定

Goldfireサービスを実行するアプリケーションアカウントのパスワードを入力してください。

このアカウントは、サーバーマシン上で管理者権限を有するアカウントと一致している必要があります。

【Next>>】をクリックします。

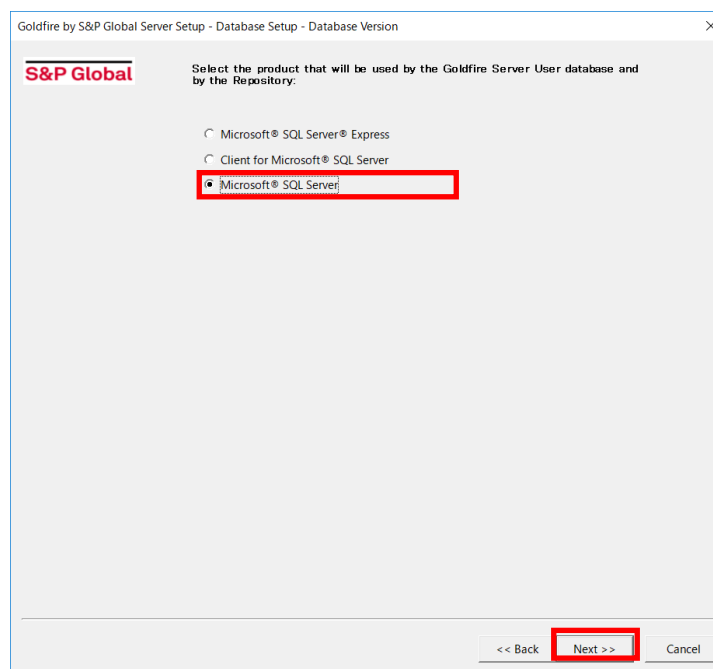
※確認画面が出た場合は、【OK】をクリックします。



8. ユーザーデータベースの選択ならびに必要なに応じてインストール

「Microsoft SQL Server」のラジオボタンを選択し、【Next>>】をクリックします。

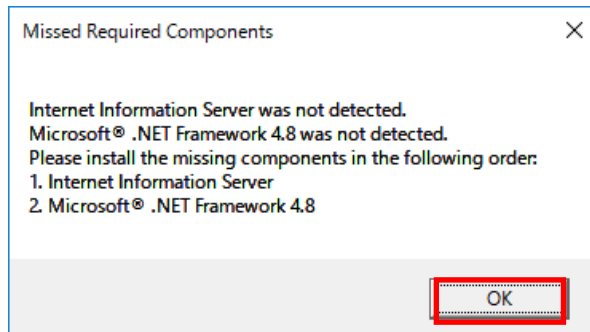
※ Microsoft SQL Server Express をご利用の場合も、「Microsoft SQL Server」を選択してください。



9. Microsoft .NET Framework 4.8 インストールの確認

Microsoft .NET Framework 4.8 がインストールされていない場合、必須コンポーネントをインストールするよう促します。

【OK】をクリックして、必須コンポーネントをインストールします。

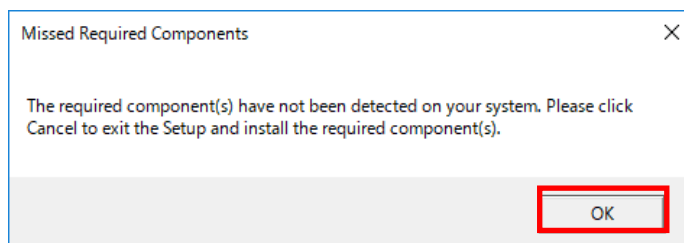


インストール完了後、Goldfireサーバーのセットアップを再度起動してください。

10. 必須コンポーネントのインストールの確認

必須コンポーネントがインストールされていない場合、右図のダイアログが表示され 必須コンポーネントをインストールするよう促します。

【OK】をクリックして、必須コンポーネントをインストールします。

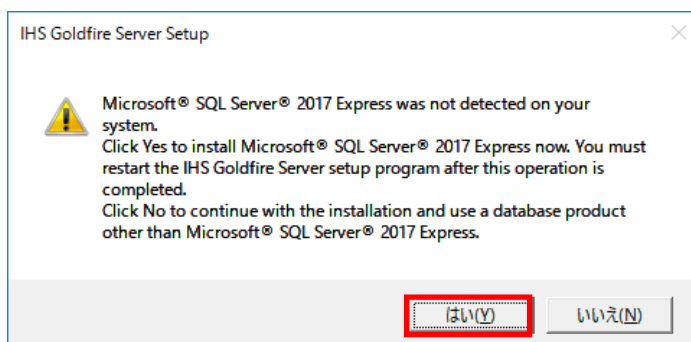


11. Microsoft SQL Server 2017 Expressインストールの確認

Microsoft SQL Server がインストールされていない場合、右図のダイアログが表示されSQL Server 2017 Expressをインストールするよう促します。

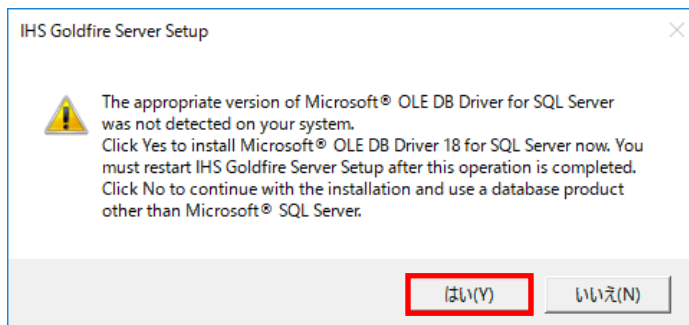
インストールを行うには、【はい】をクリックします。

完了後Goldfireサーバーのセットアップを再度起動してください。



12. OLE DB Driver 18 for SQL Serverインストールの確認

OLE DB Driver for SQL Serverがインストールされていない場合、右図のダイアログが表示されOLE DB Driver 18 for SQL Serverをインストールするよう促します。
インストールを行うには、【はい】をクリックします。

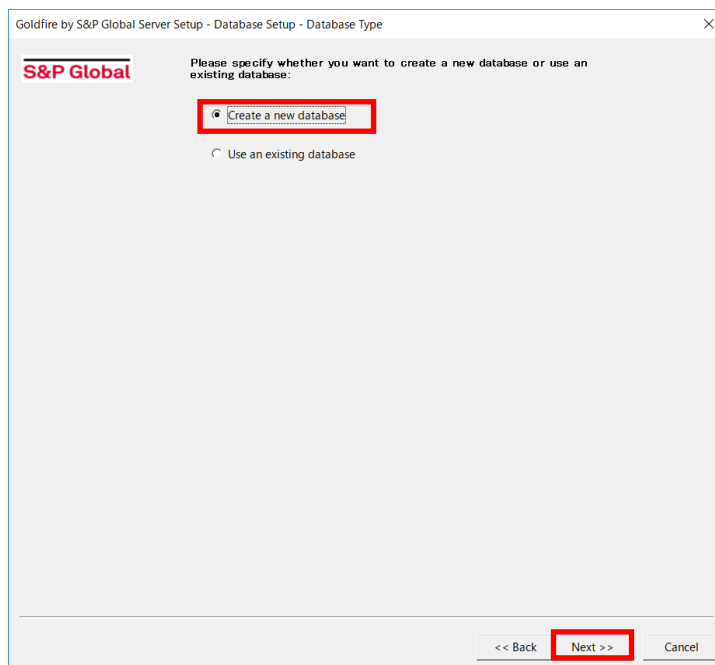


完了後Goldfireサーバーのセットアップを再度起動してください。

13. データベースの種類を選択

「Create a new database」のラジオボタンを選択し、【Next>>】をクリックします。

※ 再インストールの場合は、「Use an existing database」のラジオボタンを選択してください。

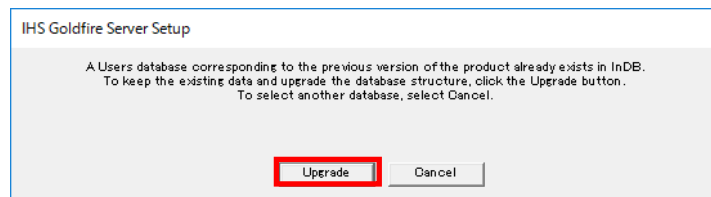
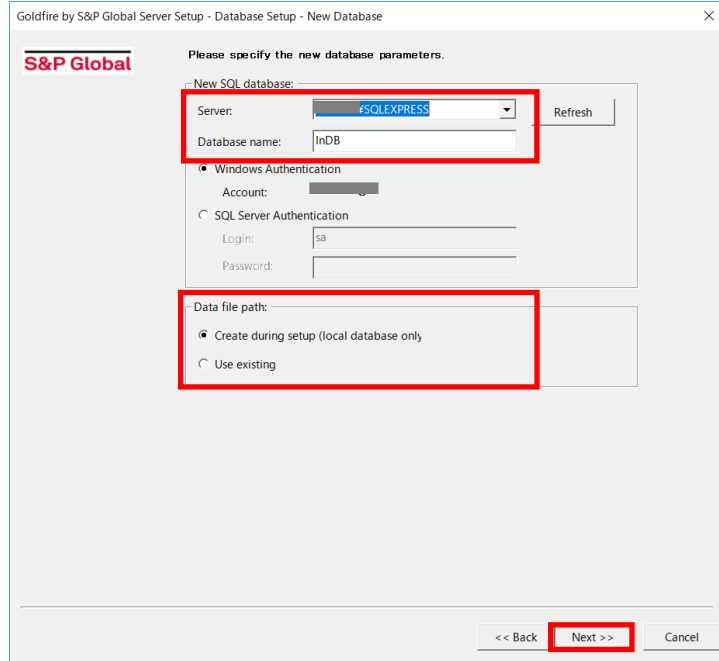


14. データベースのパラメータ設定

サーバー名を選択し、データベース名を入力してください（デフォルトで入力されている「InDB」のままを推奨します）。

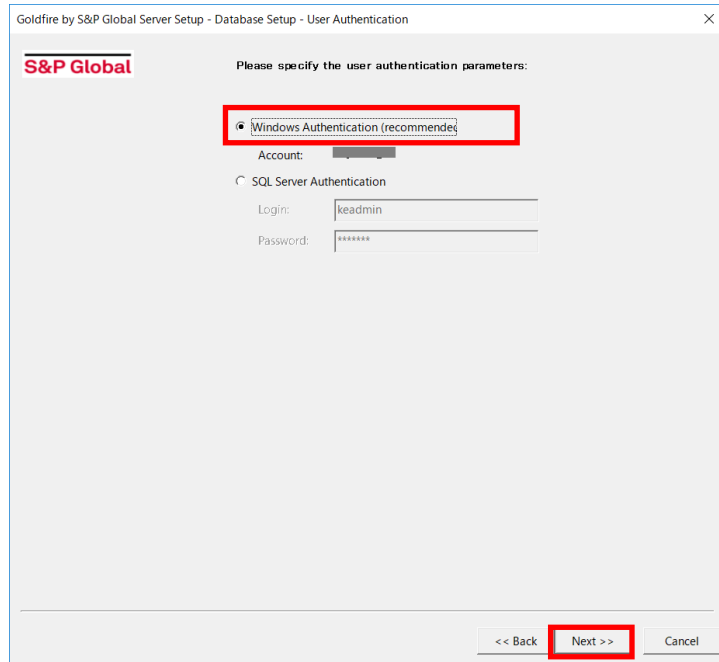
データファイルパスは、「Create during setup (local database only)」*を選択し、【Next>>】をクリックします。

※ 再インストールの場合は、「Use the existing」のラジオボタンを選択してください。
その際、旧バージョンの製品に対応するデータベースの存在について、右のような警告が表示されます。インストールを続けるには、【Upgrade】ボタンをクリックします。



15. 認証パラメータの設定

「Windows Authentication (recommended)」(Windows認証)のラジオボタンを選択し、【Next>>】をクリックします。



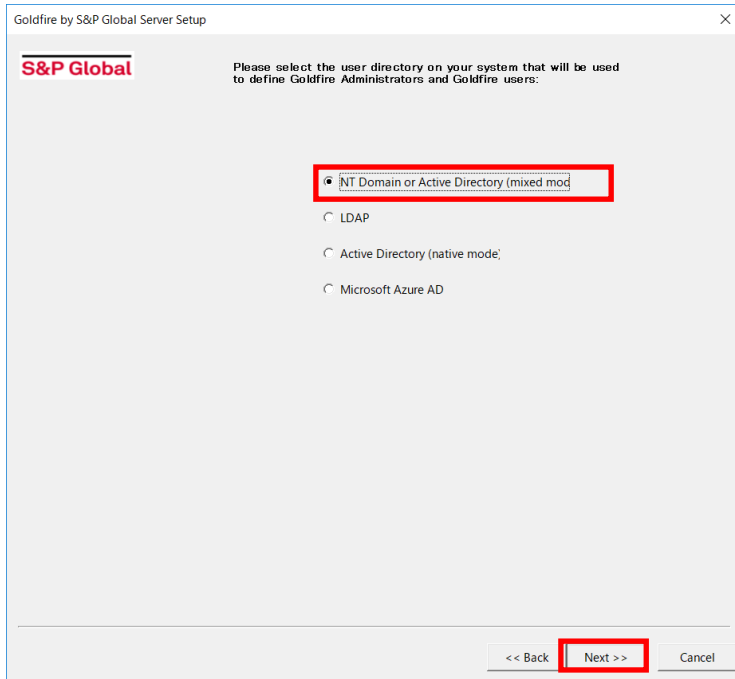
16. ユーザーディレクトリの設定

Goldfireエンドユーザーアカウントを定義するユーザーディレクトリのシステムを選択します。

「NT Domain or Active Directory (mixed mode)」(混在モード)のラジオボタンを選択してください。

※ Active Directoryネイティブモード使用の場合のみ「Active Directory (native mode)」を選択してください。

【Next>>】をクリックします。



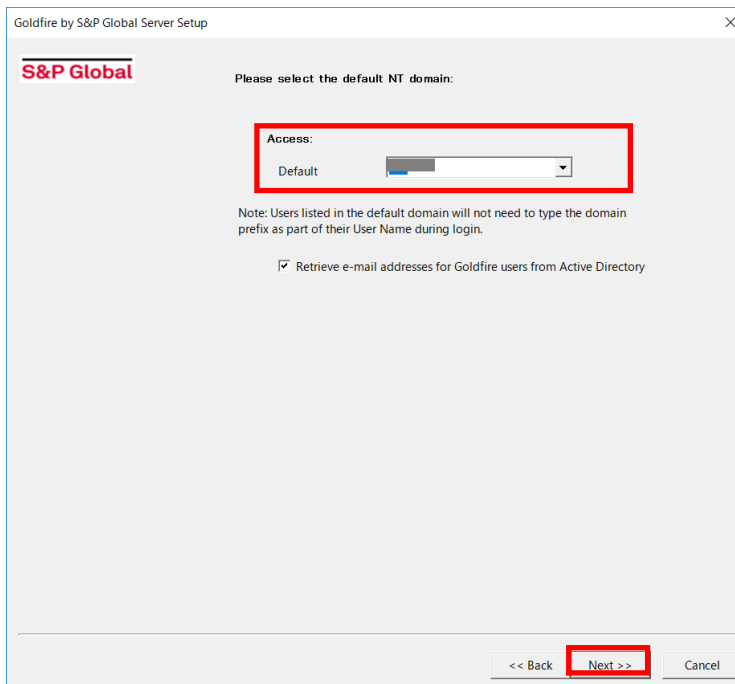
17. ドメインの指定およびメールアドレス検索とアカウントの設定

デフォルトのドメインをプルダウンメニューから選択します。

アクティブディレクトリからGoldfireユーザーのメールアドレスを取得する場合、

「Retrieve e-mail addresses for IHS Goldfire users from Active Directory」にチェックを入れます。

【Next>>】をクリックします。



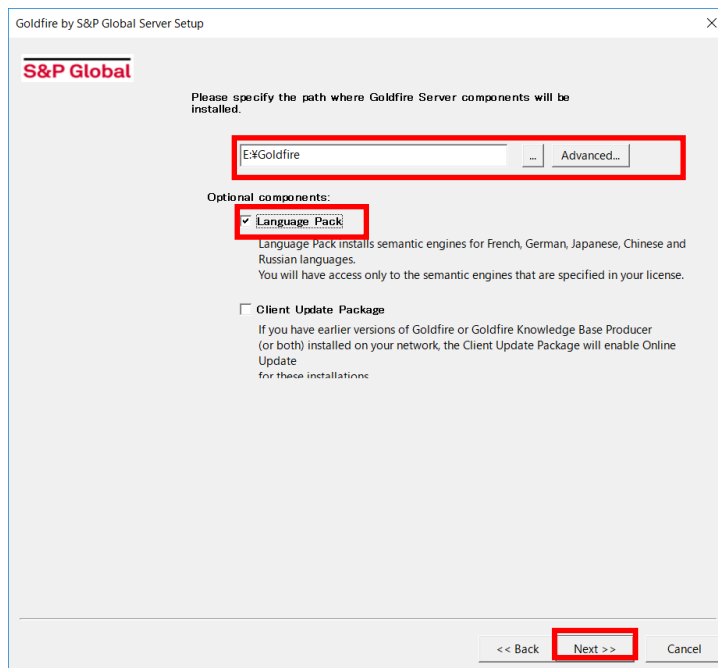
18. インストールする場所の指定

Goldfireサーバーをインストールする場所を指定してください。

日本語のセマンティックエンジンを利用するため、「Language Pack」のチェックボックスが選択されていることを確認します。

「Client Update Package」のチェックボックスは選択しないでください。

選択を終えたら、【Next>>】をクリックします。



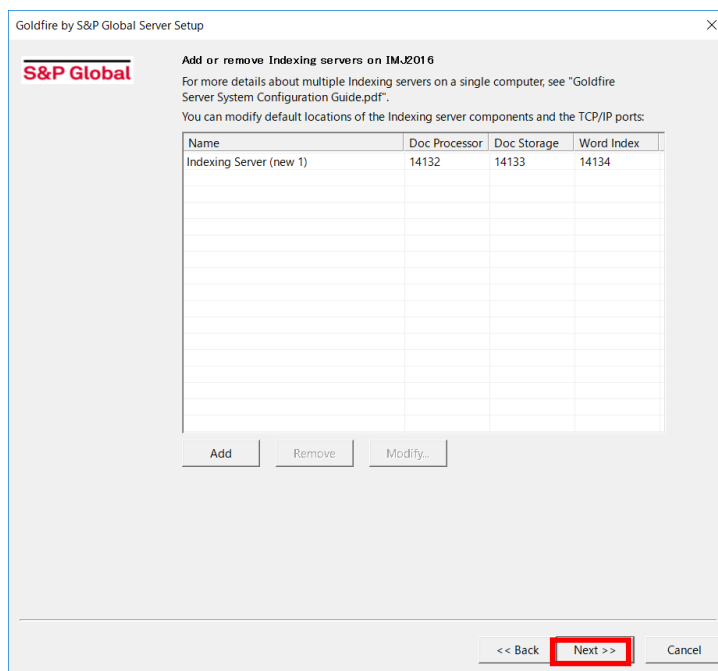
19. インデックスサーバーの設定

インデックス用の処理サーバーを設定します。

※アプリケーションサーバーのみをインストールする場合表示されません。

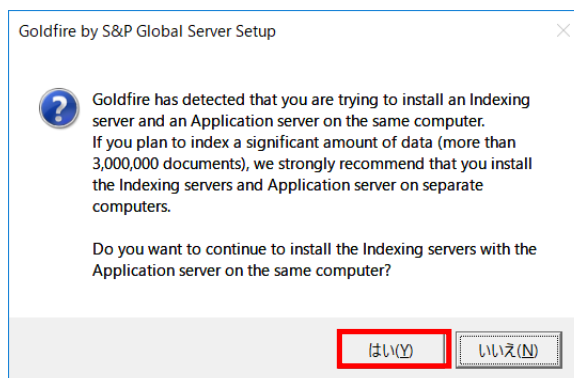
【Next>>】をクリックします。

※インデックス用のサーバー機を利用する場合は、構成ガイドをご参照下さい。



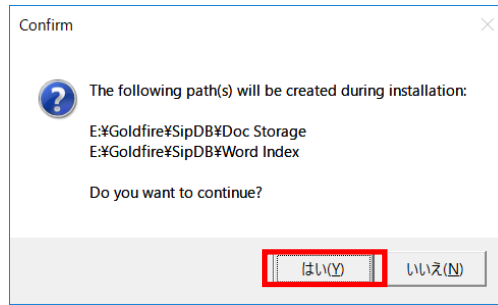
インデックスサーバーに保存できる文書数の確認画面が表示されます。

【はい】をクリックします。



インデックスサーバー用のフォルダの確認画面が表示されます。

【はい】をクリックします。



20. ネットワークパスの指定

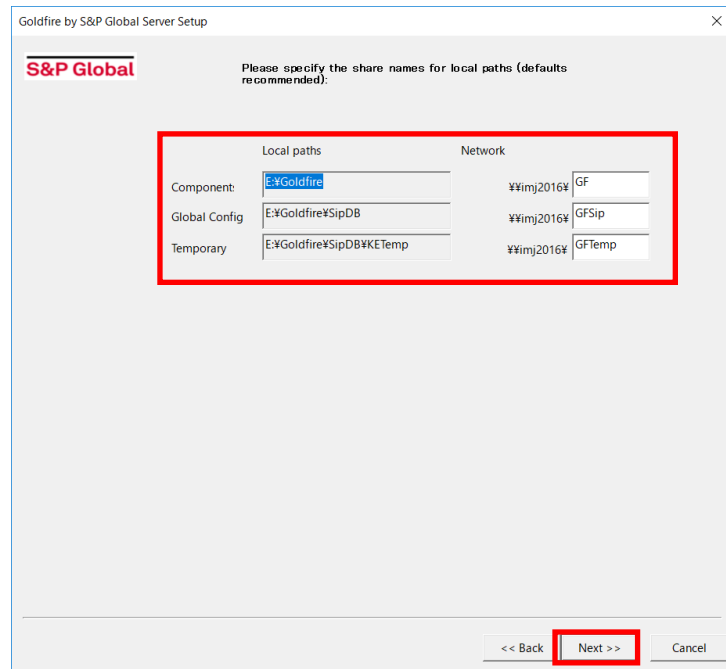
Goldfireで使用するネットワークパスを指定します。

デフォルトで入力されている

- ・ GF (構成要素)
- ・ GFSip (グローバルコンフィグファイル)
- ・ GFTemp (一時フォルダ)

となっていることを確認します。

【Next>>】をクリックします。



21. サーバーアクセスのアドレス指定

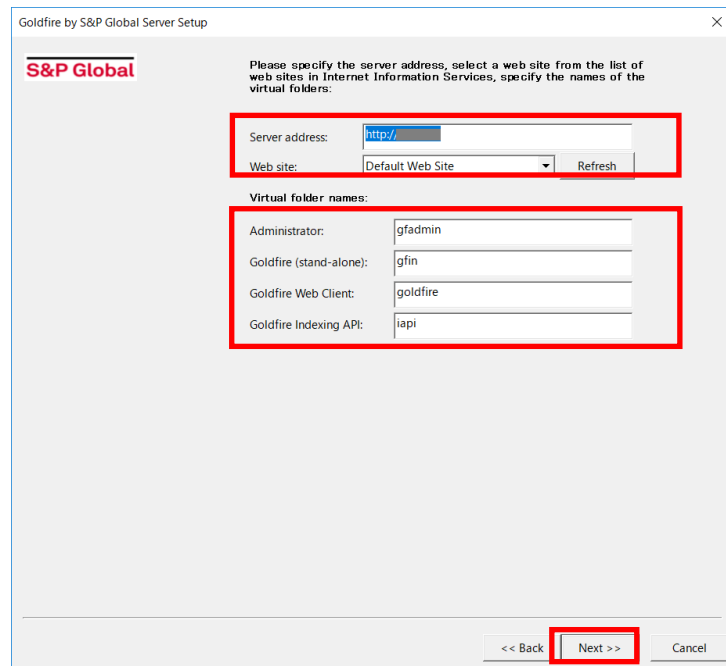
クライアントから各アプリケーションを使用するためにアクセスするアドレスを指定します。

デフォルトで入力されている

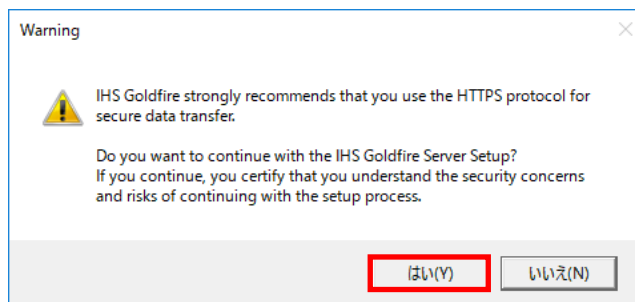
- ・ gadmin (Goldfire Administrator 用)
- ・ gfin (シッククライアント用)
- ・ goldfire (ウェブクライアント用)
- ・ iapi (索引用API)

となっていることを確認します。

認証方法を選択し、【Next>>】をクリックします。



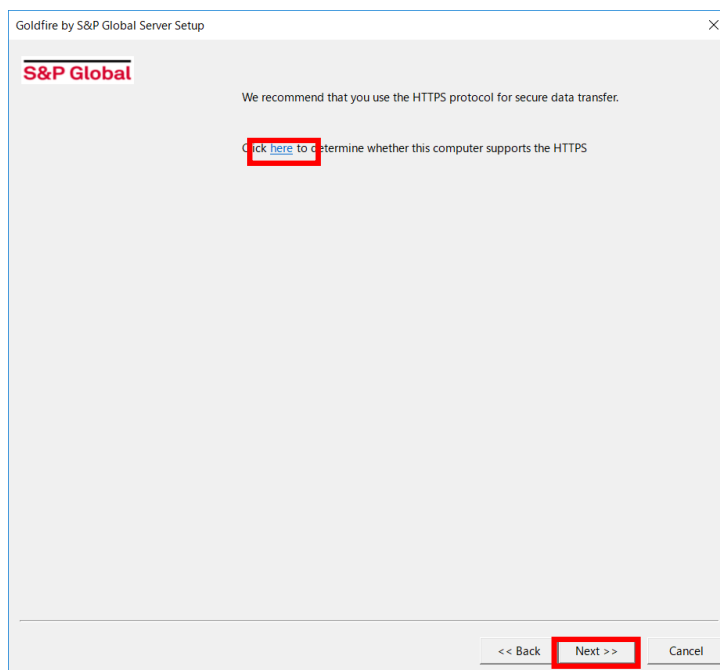
※ Warningが表示された場合は、
処理を続行するため、【はい】を
クリックしてください。



22. HTTPSプロトコルの設定

【here】をクリックするとHTTPS
プロトコルを確認します。

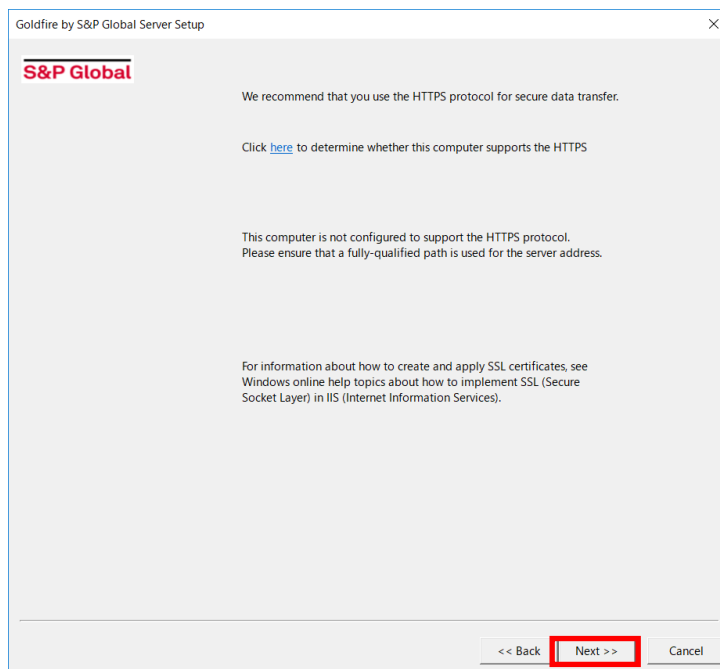
セキュリティ保護の面から
HTTPSプロトコルを設定するこ
とを推奨します。



IISでのSSLを構成する方法に関し
て Windowsのヘルプを参照して
ください。

設定していなくてもインストール
を続けることができます。

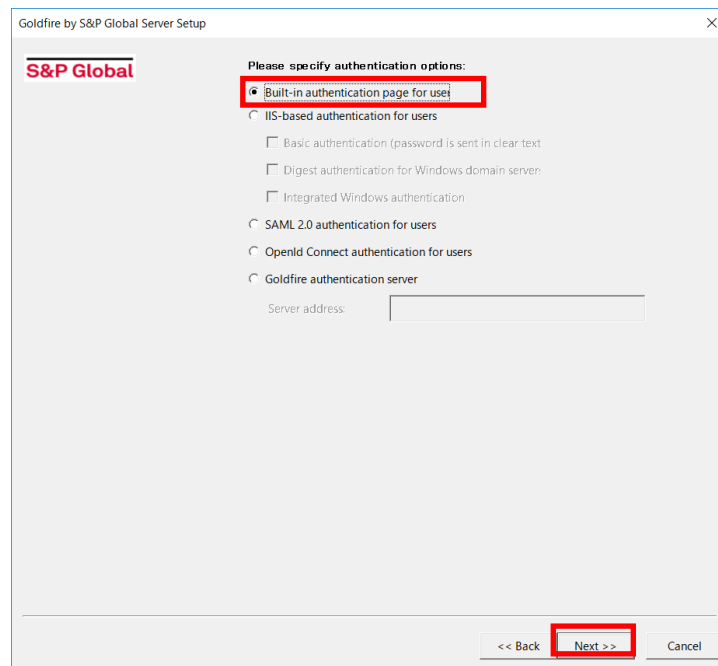
【Next>>】をクリックします。



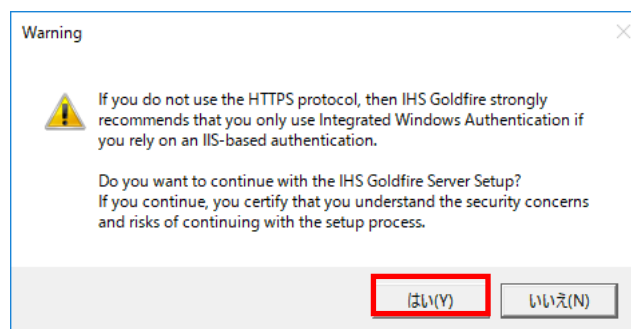
23. 認証設定

認証方法を選択し、【Next>>】をクリックします。(通常はデフォルトのままです。)

- ※ シングルサインオンを利用する場合は、「IIS-based authentication for users」のラジオボタンを選択し、シングルサインオンとして利用する認証方法を選択します。
- ※ その他の認証方法を利用する場合は、ご利用の認証方法にあわせて適宜変更してください。



- ※ Warningが表示された場合は、処理を続行するため、【はい】をクリックしてください。

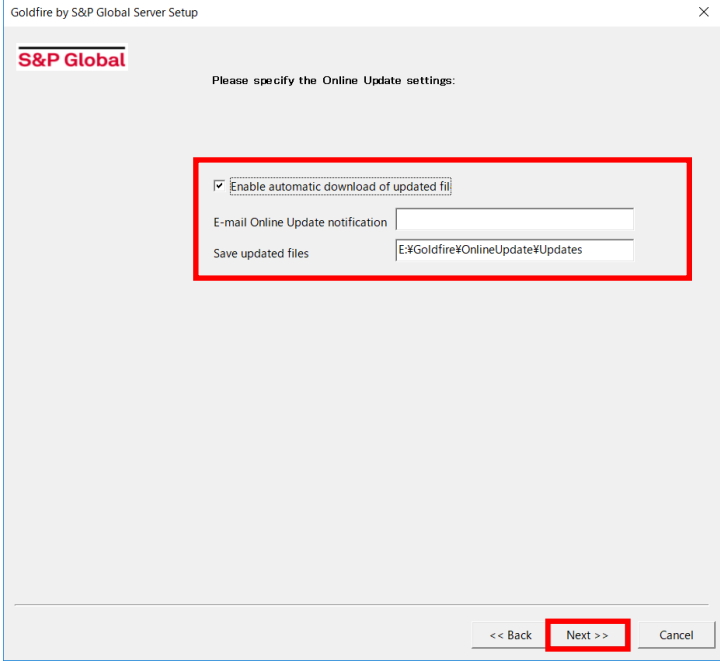


24. オンライン更新設定

オンライン更新通知先のメールアドレスを入力し、【Next>>】をクリックします（保存先はデフォルトを推奨）。

更新ファイルを自動でダウンロードする場合にはチェックボックスを選択します。

※ 更新ファイルの確認は手動でも行えます。また、更新に関する設定はインストール終了後も変更する事が出来ます。



25. メールサーバーの設定

送信用SMTPメールサーバーを設定します。

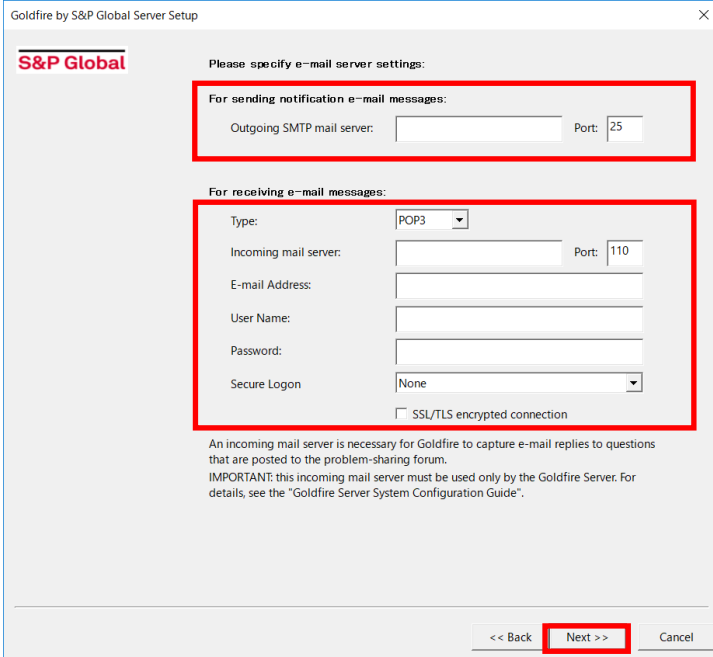
【Goldfire On-premisesの場合】

【次へ】をクリックすると送信用SMTPメールサーバーへの接続テストを行います。

※送信用SMTPメールサーバーは環境構築後に設定・変更することが可能です。

※受信用メール設定は不要です。

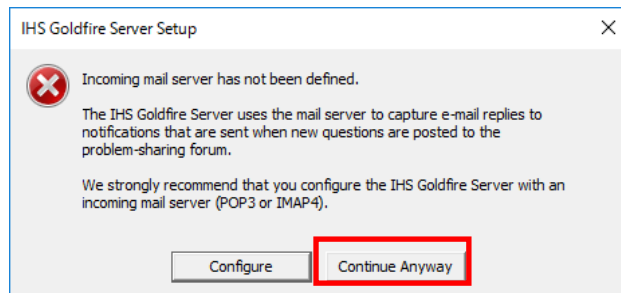
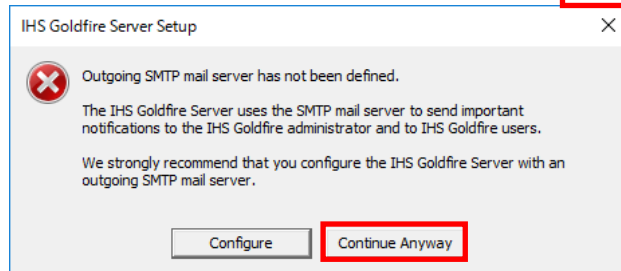
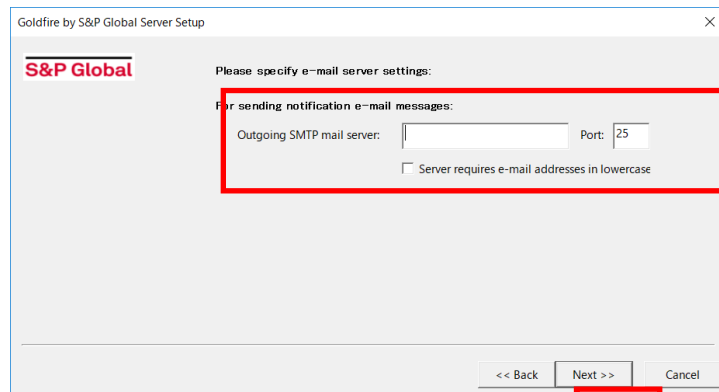
Goldfire Cloudの場合、受信用メール設定の画面もございません。



【Goldfire Cloudの場合】

送信用SMTPメールサーバーへ接続できない場合、メッセージが表示されます。インストールを続ける場合、【Continue Anyway】をクリックします。

受信メールサーバーへ接続できない内容のメッセージは【Continue Anyway】をクリックします。

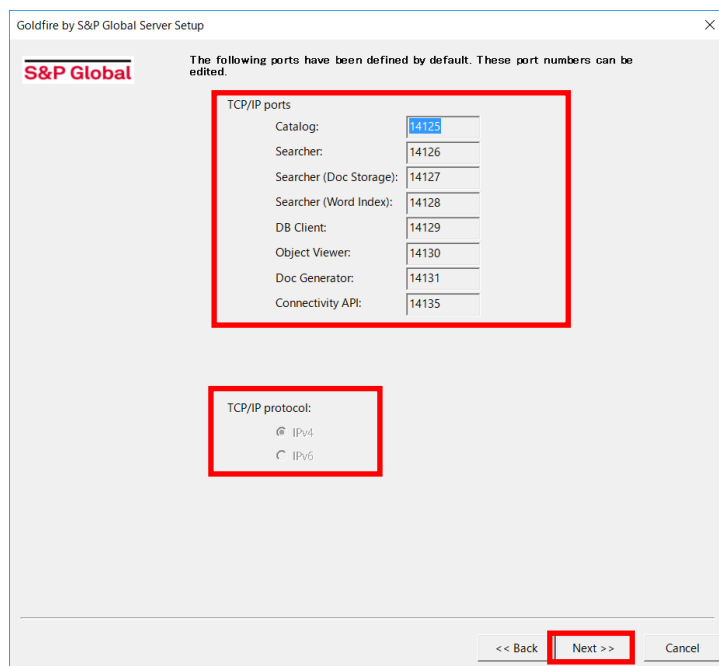


26. ポート番号および IPv6 プロトコルの指定

各ポート番号（デフォルトを推奨）を確認します。

IPv6 プロトコルを使用する場合 TCP/IP プロトコルで IPv6 のラジオボタンを選択します。

【Next>>】をクリックします。

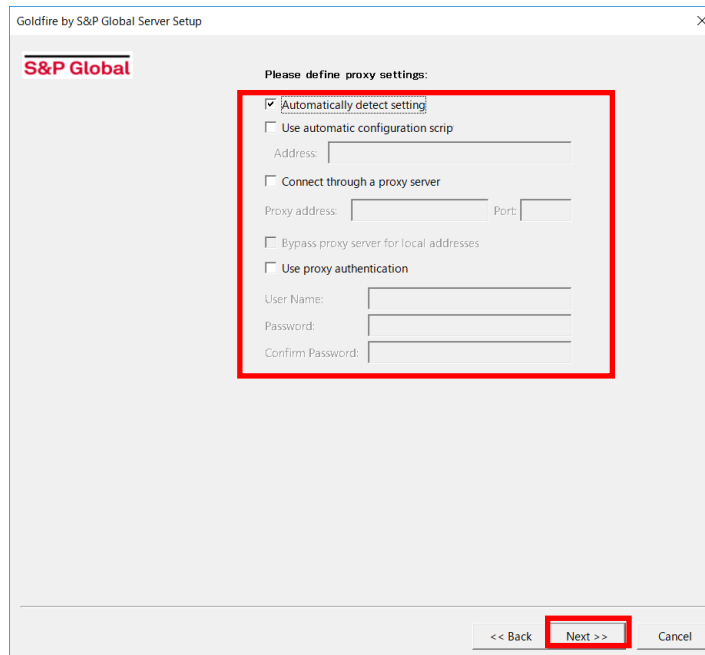


27. プロキシ設定

プロキシサーバーおよびユーザー
プロキシ認証を設定します。

【Next>>】をクリックします。

※ プロキシの設定に関しては、使
用しているネットワークシステ
ムの管理者にお問い合わせくだ
さい。



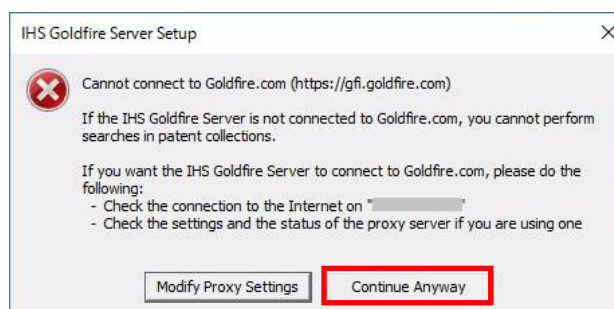
その後、右のようなメッセージが
表示されGoldfire.comサーバーと
の接続テストが始まります。



インターネット接続の不具合等の
理由により接続に問題がある場
合、右図のようなメッセージが表
示されます。

プロキシ設定を変更する場合は、
「プロキシ設定」ボタンをクリッ
クします。

インストールを進める場合、
「Continue Anyway」ボタンをク
リックし、次へ進んでください。



28. インデキシングマネージャーの設定確認

各種文書ソースのコネクタの管理機能であるインデキシングマネージャーが追加されます。

デフォルト設定のまま

【Next>>】をクリックします。

The screenshot shows the 'Goldfire by S&P Global Server Setup' dialog box. The title bar reads 'Goldfire by S&P Global Server Setup'. The main content area is titled 'Install Indexing Manager application and agent' and features the S&P Global logo. It contains two checked sections: 'Indexing Manager application' and 'Indexing Manager agent'. The 'Indexing Manager application' section includes a text box for 'Indexing Manager location' with the value 'E:\Goldfire\IndexingManager' and a 'Web Application name' field with the value 'IndexingManager'. The 'Indexing Manager agent' section includes a text box for 'Indexing Manager Agent location' with the value 'E:\Goldfire\IndexingManager\Agent', an 'Agent host' dropdown menu set to 'localhost', and an 'Agent port' field set to '5001'. A checkbox for 'Use HTTPS to connect to the Indexing Manager Agent' is present and unchecked. At the bottom right, there are three buttons: '<< Back', 'Next >>', and 'Cancel'. The 'Next >>' button is highlighted with a red rectangle.

29. ドキュメントビューアの設定確認

検索結果の各文書をハイライト表示する機能であるドキュメントビューアが追加されます。

デフォルト設定のまま

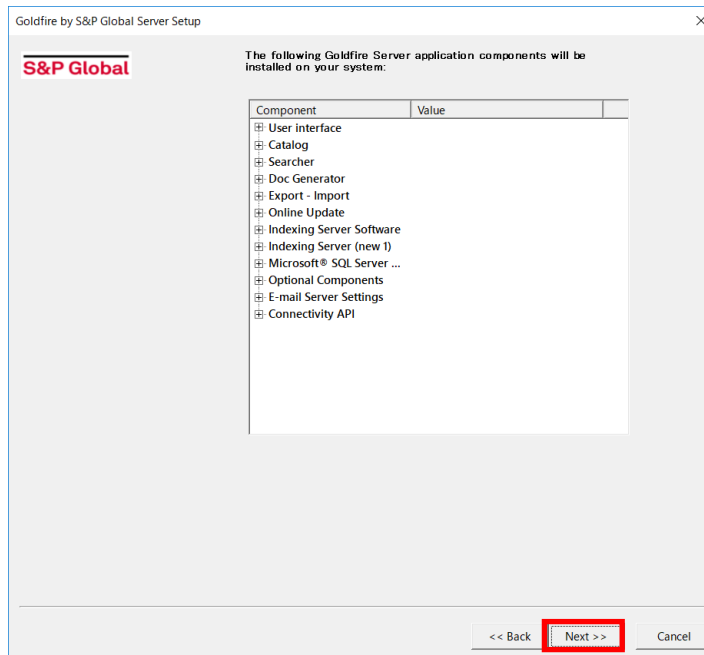
【Next>>】をクリックします。

The screenshot shows the 'Goldfire by S&P Global Server Setup - Document Viewer service' dialog box. The title bar reads 'Goldfire by S&P Global Server Setup - Document Viewer service'. The main content area is titled 'Document Viewer service' and features the S&P Global logo. It includes a text box for 'Document Viewer location' with the value 'E:\Goldfire\DocumentViewer' and a 'Document Viewer' dropdown menu set to 'goldfireserver'. Below that, there is a 'Document Viewer' field with the value '5000'. At the bottom right, there are three buttons: '<< Back', 'Next >>', and 'Cancel'. The 'Next >>' button is highlighted with a red rectangle.

30. 各コンポーネントのインストール確認

ここまでのインストール作業で設定したコンポーネントが表示されます。

確認し、【Next>>】をクリックします。

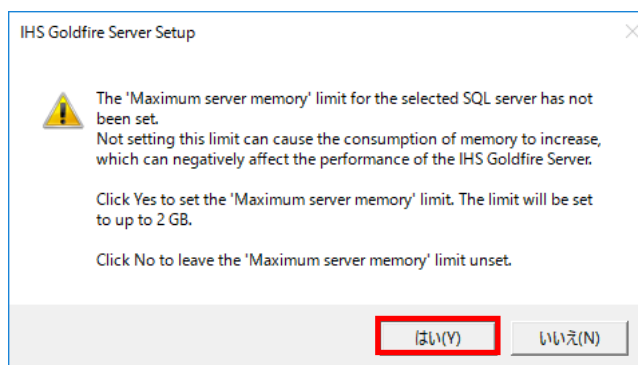


31. SQL Serverに対する最大メモリの設定

右のようなメッセージが表示されたら、【はい】をクリックして、「最大サーバメモリ」制限を2GBに設定することを推奨します。

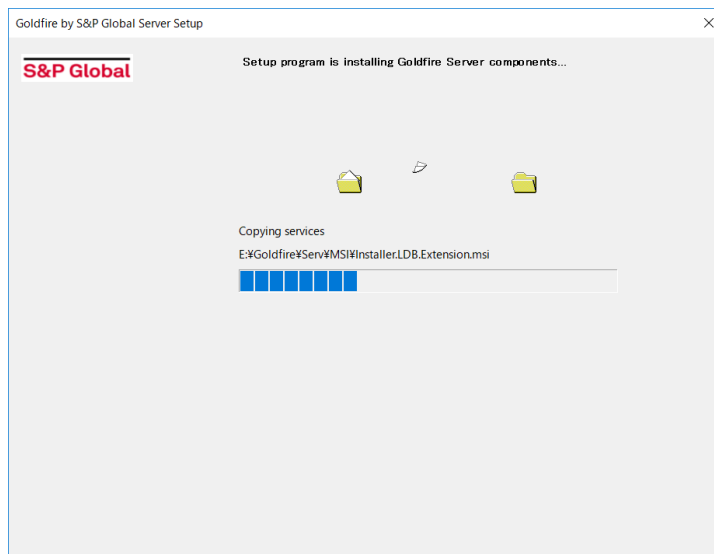
最大メモリを設定しない場合、【いいえ】をクリックします。

※SQL Server使用メモリを制限することによりGoldfireサービスで利用できるメモリ領域を確保します。



32. インストール開始

インストールが始まります。

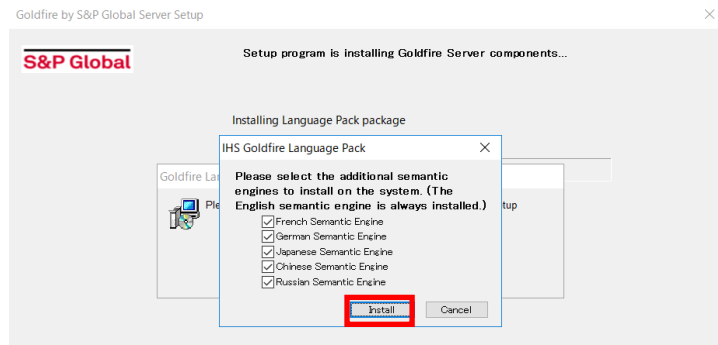


33. Goldfire言語パックの選択

先の手順16で言語パックのインストールオプションを選択した場合は、Goldfire言語パックの選択ダイアログが表示されます。希望する言語のエンジンのチェックボックスを選択してください。

日本語の文章を処理するためには、必ず「Japanese semantic engine」のチェックボックスを選択してください。

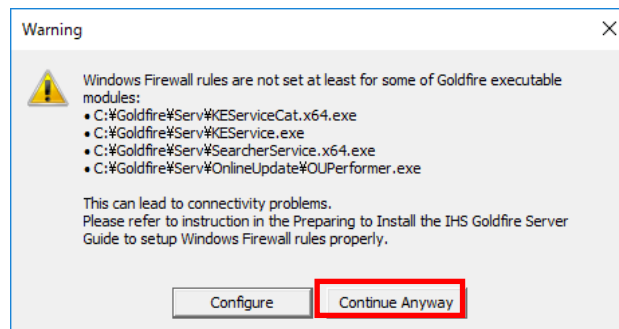
【インストール】をクリックします。



34. Firewall設定の確認

Goldfireを実行するために必要となるファイアウォールの設定確認のため、右図のようなメッセージが表示されます。

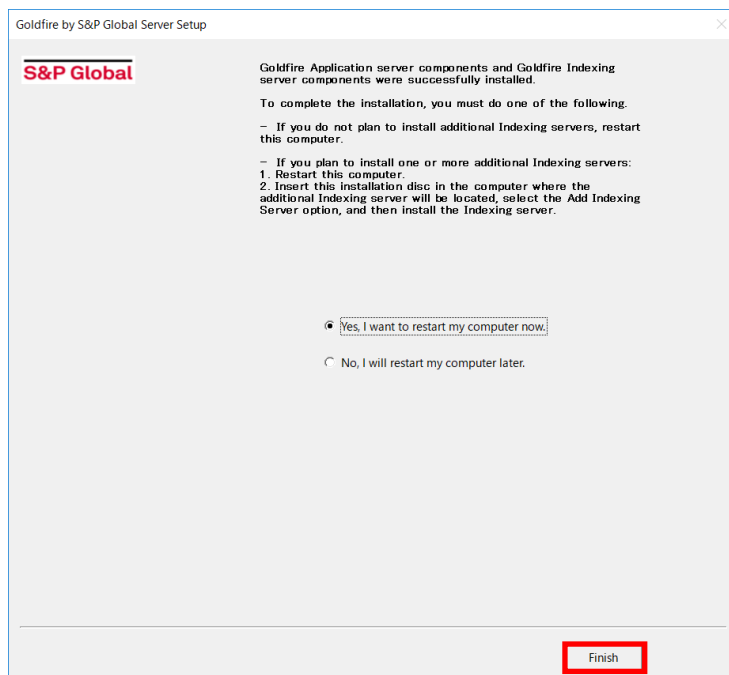
必要に応じてWindowsおよびインストールしたセキュリティソフトウェアのファイアウォール設定を確認してください。



35. インストール完了

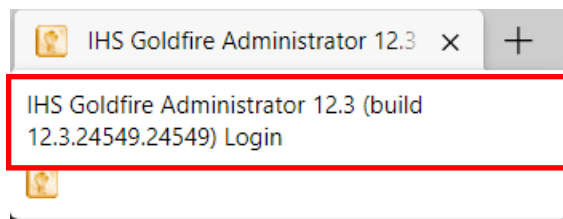
【完了】をクリックし、サーバーを再起動してください。

以上でGoldfireサーバーのインストールは終了です。



再起動後、
Goldfire Administrator へアクセスし、ビルド番号が「12.5.24549.24549」であることを確認してください。

以上でGoldfireサーバーのインストールは終了です。



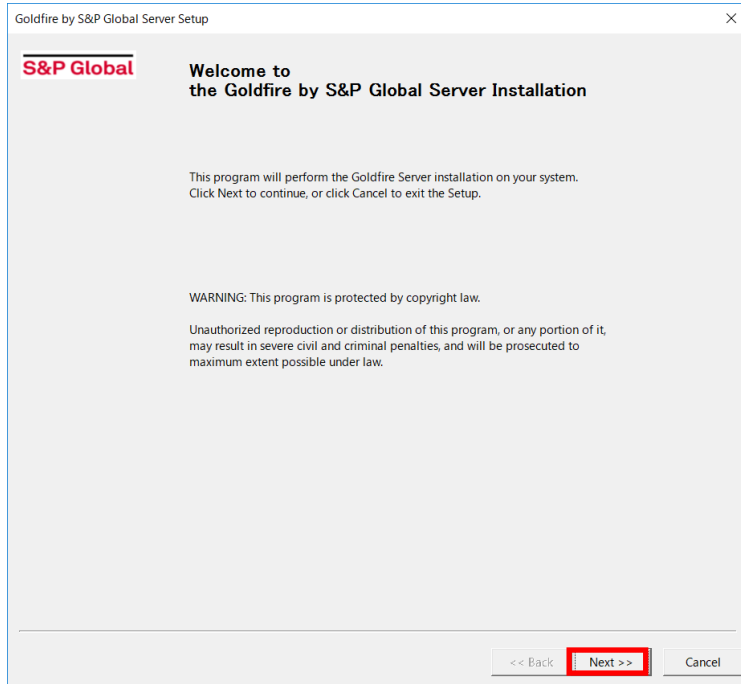
7. Goldfireサーバー（インデックス）のインストール

1. ようこそGoldfire Serverのインストールへ

インストールプログラム内の Setup.exeをダブルクリックします。

セットアップ画面（右図）が表示されますので、【Next>>】をクリックします。

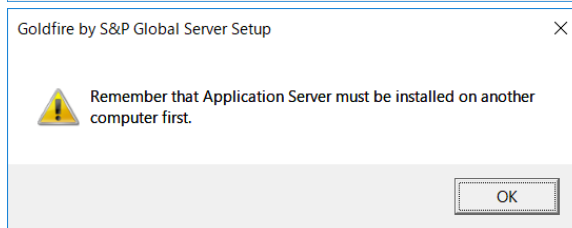
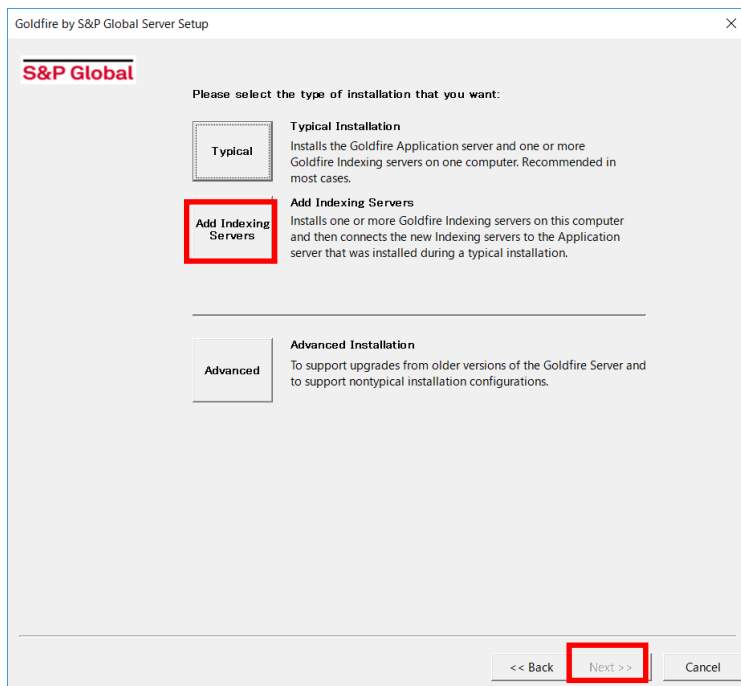
- ※ メディアの内容をサーバー HDD にコピー後、Setup.exe を実行することを推奨します。



2. インストールの種類を選択

【Add Indexing Servers】をクリックします。

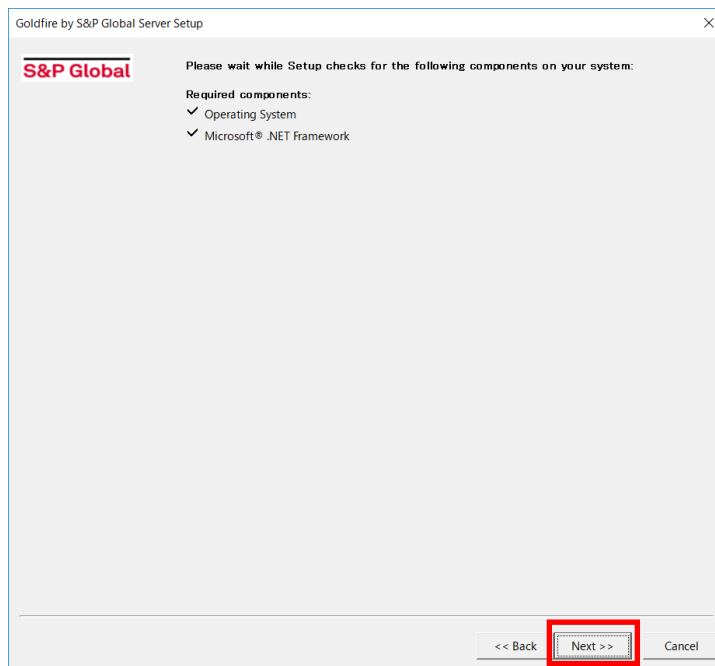
- ※ Application Server についての確認画面が表示されたら、【OK】ボタンをクリックします。



3. 必要なコンポーネントの設定チェック

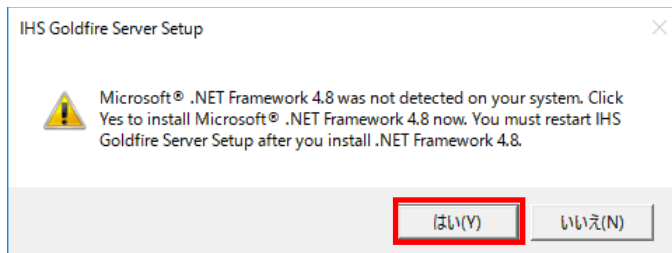
サーバーマシン内に必要なコンポーネントがインストールされているかどうかのチェックが行われます。

チェック結果を確認し、【Next>>】をクリックします



4. Microsoft .NET Framework 4.8 インストールの確認

Microsoft .NET Framework 4.8 がインストールされていない場合、右図のダイアログが表示されます。インストールを行うには、【はい】をクリックします。



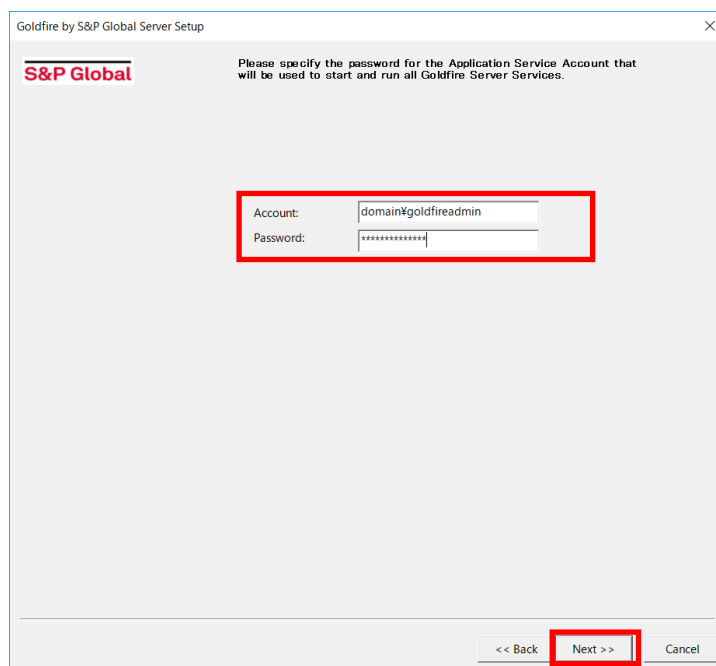
完了後Goldfireサーバーのセットアップを再度起動してください。

5. アプリケーションサービスアカウントのパスワードの設定

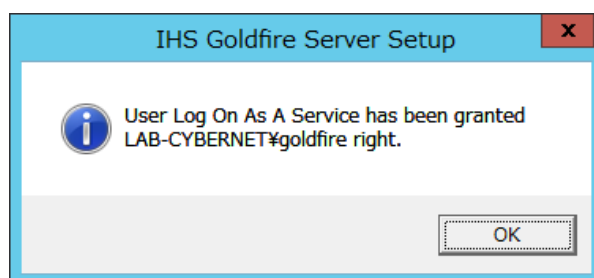
Goldfireサービスを実行するアプリケーションアカウントのパスワードを入力してください。

このアカウントは、サーバーマシン上で管理者権限を有するアカウントと一致している必要があります。

【Next>>】をクリックします。



※ 確認画面が出た場合は、【OK】をクリックします。



6. 共有フォルダのネットワークパスの設定

Goldfireアプリケーションサーバーの共有フォルダのパスを設定します。

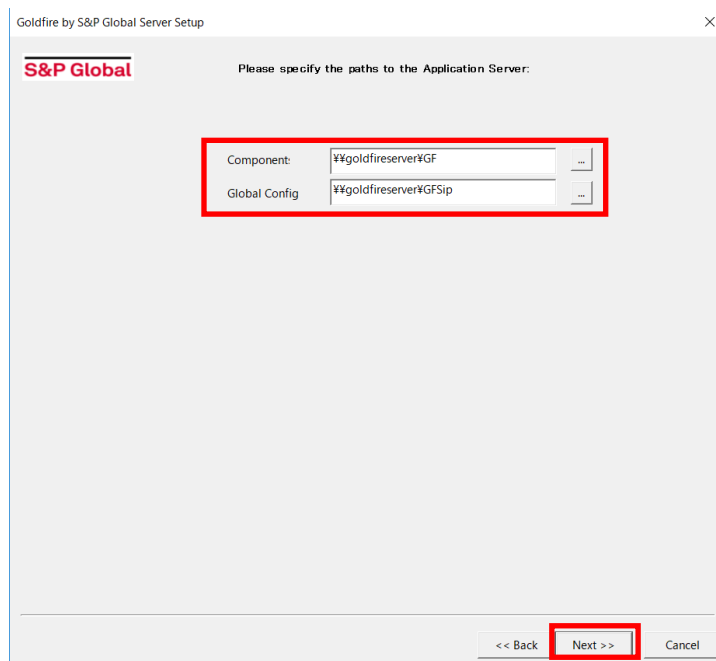
Components)

%%applicationserver_hostname%
GF%

Global Config File)

%%applicationserver_hostname%
GFSip%

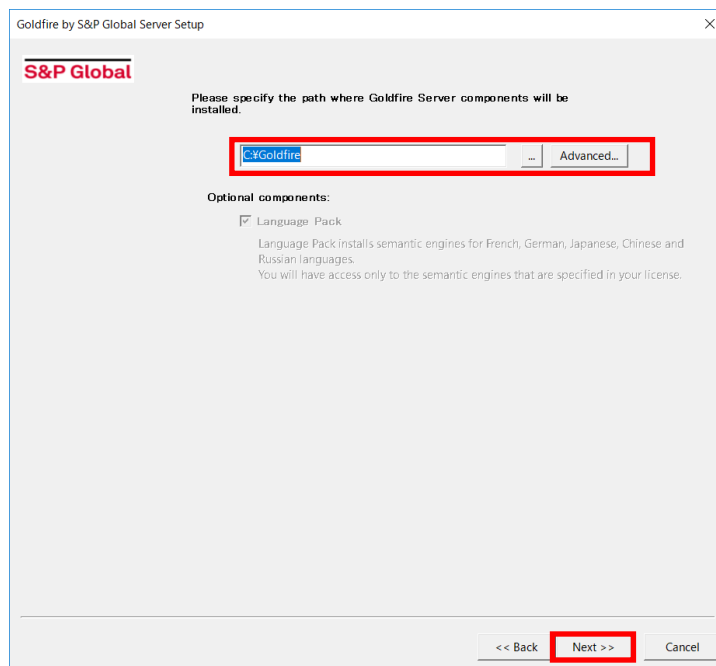
【Next>>】をクリックします。



7. インストールする場所の指定

Goldfireインデックスサーバーをインストールする場所を指定してください。

指定を終えたら、【Next>>】をクリックします。

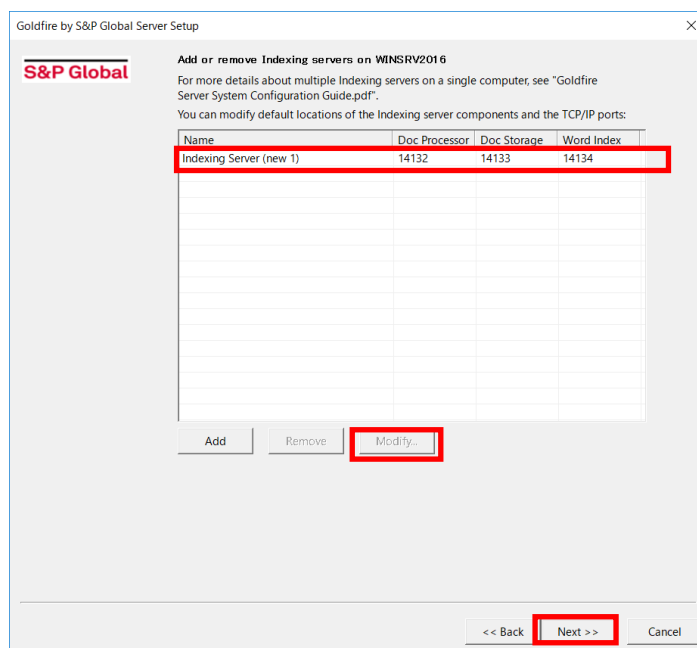


8. インデックスサーバーの設定

インデックス用の処理サーバーを設定します。

【Modify...】をクリックして、ローカルフォルダパスを入力します。

ローカルフォルダパス設定完了後、【Next>>】をクリックします。

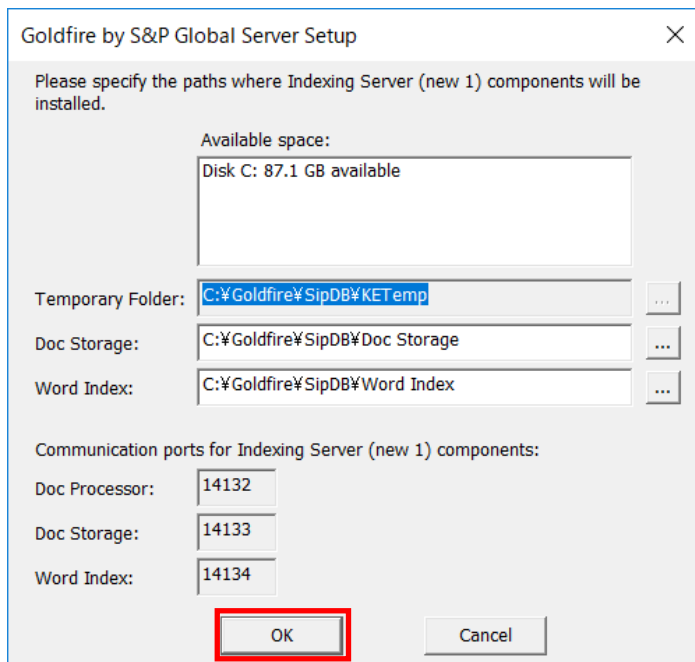


9. ローカルフォルダパスの入力

Goldfireで使用するローカルパスを指定します。

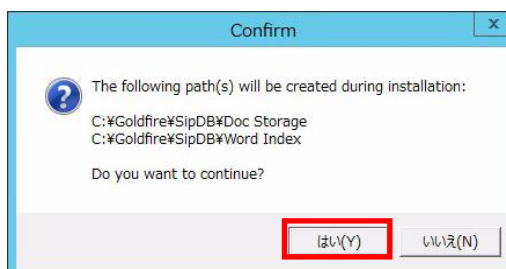
必要に応じて、ドライブを変更します。

【OK】をクリックします。



インデックスサーバー用のフォルダの確認画面が表示されます。

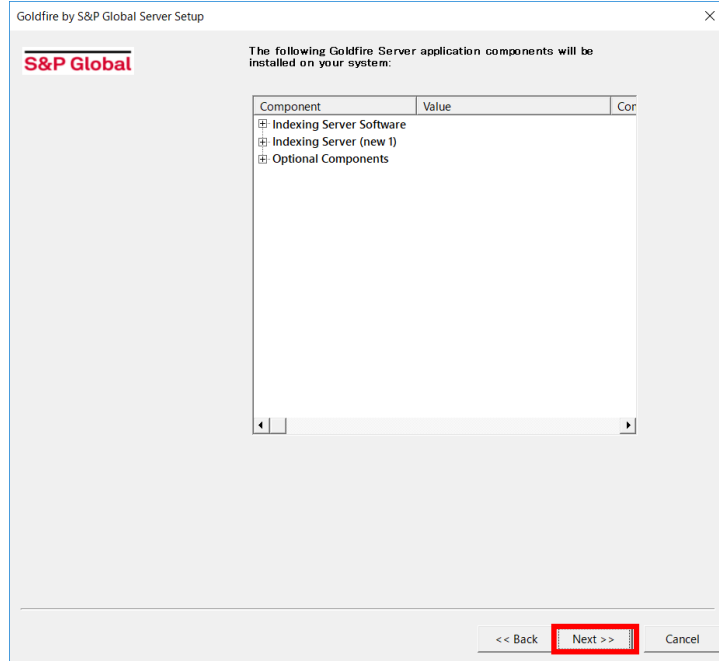
【はい】をクリックします。



10. 各コンポーネントのインストール確認

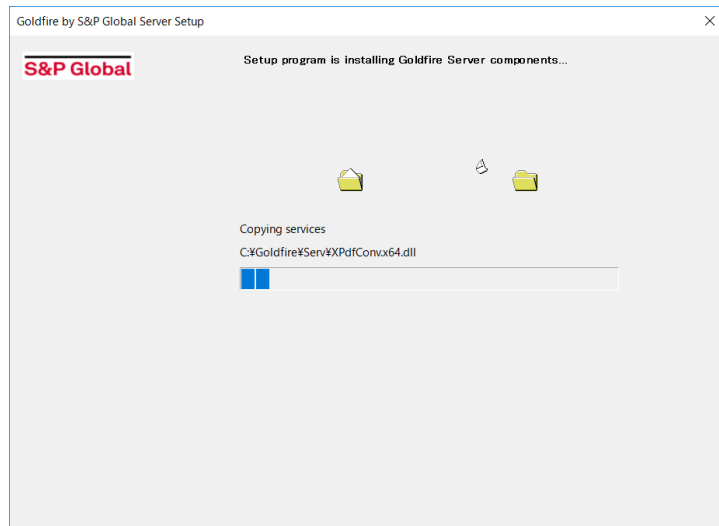
ここまでのインストール作業で設定したコンポーネントが表示されます。

確認し、【Next>>】をクリックします。



11. インストール開始

インストールが始まります。

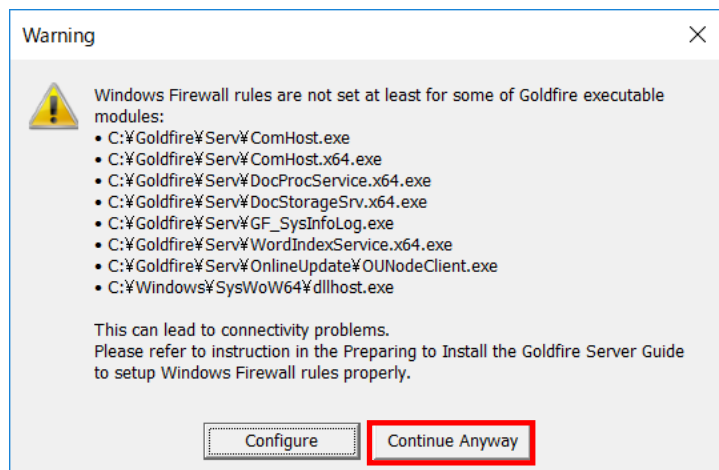


12. Firewall設定の確認

Goldfireを実行するために必要となるファイアウォールの設定確認のため、右図のようなメッセージが表示されます。

インストールを進める場合、「Continue Anyway」ボタンをクリックし、次へ進んでください。

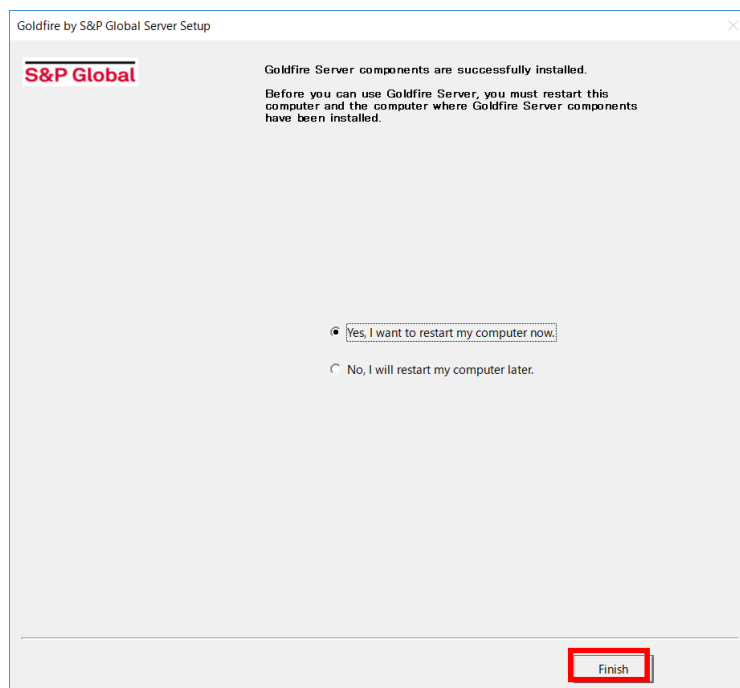
必要に応じてWindowsおよびインストールしたセキュリティソフトウェアのファイアウォール設定を確認してください。



13. インストール完了

【完了】をクリックし、サーバーを再起動してください。

以上でGoldfireサーバーのインストールは終了です。



8. Goldfire Administrator へのログイン

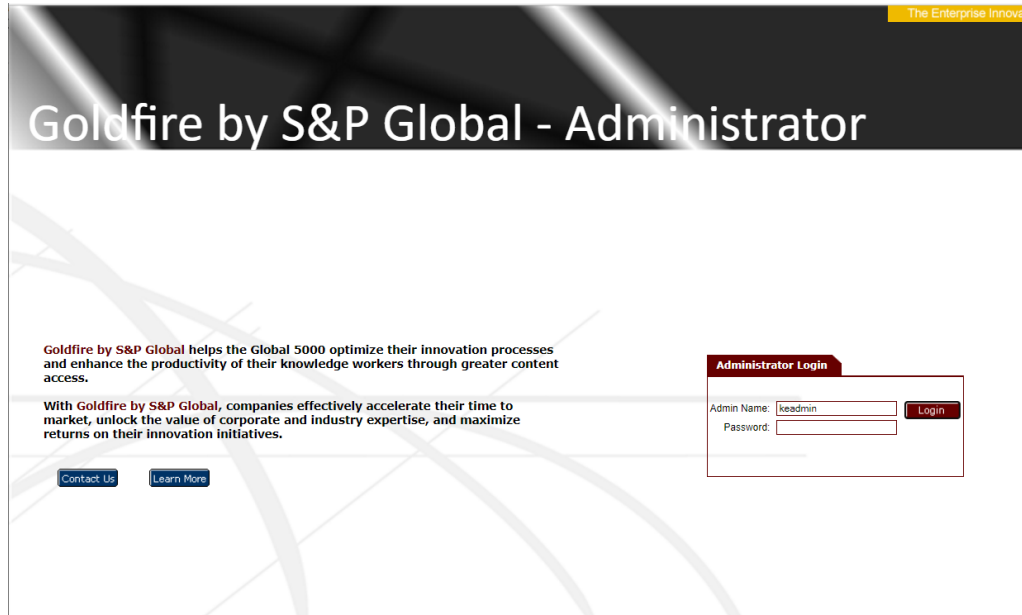
1 Goldfireアドミニストレータの起動

Windowsの「スタート」ボタンから、「すべてのプログラム」>「Goldfire Server」（プログラムの分類）>「Goldfire Administrator」（HTMLアイコン）をクリックします。

【注意】 ブラウザのセキュリティ設定を「6. Goldfire Administrator 12.5 ブラウザ（IE）設定」のように設定して下さい。

2 Goldfireアドミニストレータログイン画面

Goldfireアドミニストレータログイン画面をブラウザ上で表示します



※Goldfire11.1よりログインにはSun Javaのインストールが不要となりました。

詳細はGoldfireサーバー管理ガイド第12.5版を参照してください。

3 初回ログイン時の管理者名とパスワードを入力

インストール直後の初回ログイン時は **管理者名、パスワードとも「keadmin」と入力**してください。管理者名およびパスワードの変更方法については、ログイン後画面右上の「ヘルプ」からヘルプ画面を参照してください。

4 ライセンスファイルのインポート

ライセンスファイルは、サーバーマシンの共有フォルダに保存し、Goldfire Administratorから保存ディレクトリを指定してください。

5 シートへのユーザー割り付け

ナビゲーションバーの「ユーザー管理」内の「エンドユーザー」をクリックします。「エンドユーザー」の画面で、ライセンスファイルをGoldfire Administratorへインポートし、ライセンスのシートにエンドユーザーを割り付けてください。割り付けを行う前に、Windows上での準備（アカウント作成）が必要です。

6 社内共有知識ベースの構築および管理とアクセス権限の設定

方法および手順等の詳細については、ログイン後画面右上の「ヘルプ」からヘルプ画面を参照してください。

9. インストール後の設定

1. SoftAndの修正

インストール終了後、実施してください。

Goldfire 10.7 以降では、品詞の関連性を緩めて検索する機能 (SoftAnd) がデフォルトで有効化されています。Goldfire 10.2 以前との互換性を維持するには、SoftAnd の無効化を実施します。

SoftAndを無効化する手順を以下に示します。

1. Goldfire サーバー上で下記ファイルをテキストエディタで開きます。

<Goldfire>¥HTML¥IM.Goldfire.Server¥App_Data¥SearchRunTimeSettings.xml

※<Goldfire> はインストールフォルダを示します。例) C: ¥Goldfire

2.

<SearchRunTimeSettings
> セクションで下記記述を
探します。

"SoftAnd": true,

<p>【修正前】</p> <pre><SearchRunTimeSettings xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema- </ResultsRanking> { "Factors": { (略) } "SentenceDistance": "3:2.5, 5370" }, "SemanticDomain": "Precise", "SentenceWindow": 2, "SoftAnd": true, "ExtendSnippetMinimalLengthThreshold": 100, "EnableNgTopics": false </ResultsRanking> <ResultsRankingBySemanticModel> {</pre>	<p>【修正後】</p> <pre><SearchRunTimeSettings xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema- </ResultsRanking> { "Factors": { (略) } "SentenceDistance": "3:2.5, 5370" }, "SemanticDomain": "Precise", "SentenceWindow": 2, "SoftAnd": false, "ExtendSnippetMinimalLengthThreshold": 100, "EnableNgTopics": true } </ResultsRanking> <ResultsRankingBySemanticModel> {</pre>
---	---

3. "SoftAnd" の 値を すべて
true からfalse に変更しま
す。(4か所あります)

"SoftAnd": false,

4. ファイルを保存します。

5. IIS を再起動します。

- ・ コマンドプロンプトを起動します (Windowsの検索で「cmd」と入力し 表示される「cmd.exe」を右クリックし「管理者として実行」)。
- ・ コマンド「iisreset」を入力し、Enter キーを押下します。

2. Webクライアント上での設定（管理者権限ユーザー）

上記SoftAndの設定後、管理者権限を持つユーザーにてGoldfireクライアントでの表示設定を変更していただく必要があります。以下の手順にて、実施してください。

これにより、全てのWebクライアントのユーザーにおける「最も該当する結果」の設定が可能になります。

1. 「管理者権限を持つユーザー」にてGoldfire Webクライアントにログインします。

※「管理者権限を持つユーザー」が設定されていない場合は、Goldfireサーバー管理ガイド第12.5版「第2.4節 管理者登録」の手順に従ってご登録ください。

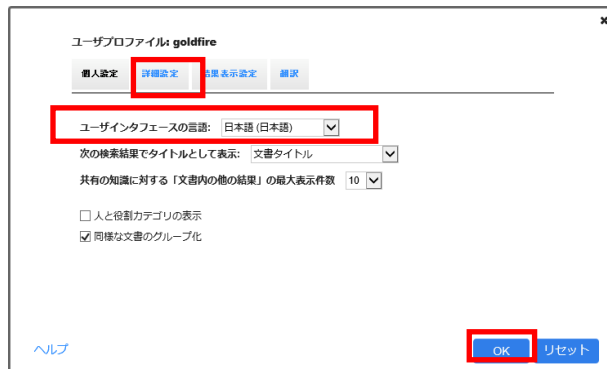


2. 画面右上のログインユーザー名をクリックします。



3. 「ユーザープロフィール」内の「詳細設定」タブにて「Goldfire質問応答」を選択し、右横の[デフォルトに設定]をクリック後、[OK]ボタンを押します。

選択ボックス側に[デフォルト (Goldfire質問応答)]という表記に切り替わります。

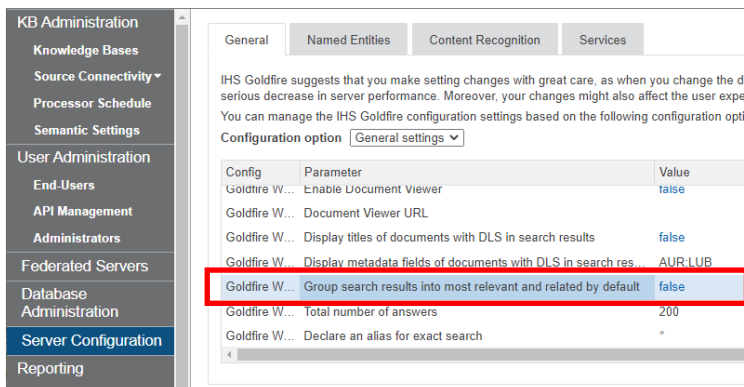


【注意】 これに管理者権限を持つユーザーが「デフォルトに設定」を変更した場合は、利用する全ユーザーに対して“デフォルト設定”の内容が反映されます。

3. 「最も該当する結果の表示」設定（一括設定）

新規ユーザーに対する「最も該当する結果の表示」設定を一括で行うことが可能です。以下の手順にて実施してください。

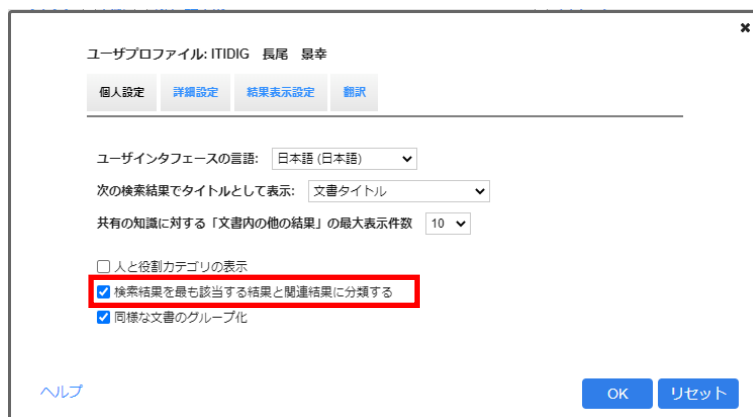
1. Goldfire Administratorにログイン後、
[Server Configuration]
>[General]タブ内の
[Group search results
into Most relevant and
Related by default] を
“false”に変更します。



※詳細は、Goldfireサーバー管理ガイド第12.5版「第6.1節 General タブ」をご参照ください。

※上記設定後は、新規ユーザーの初回ログイン時に「検索結果を最も該当する結果と関連する結果に分類する」にチェックが入ります。

【表示例】



10. Goldfire Administrator 12.5 ブラウザ設定

- サーバマシンにおいて使用するブラウザのセキュリティ設定を、「Goldfire Administratorにおけるブラウザのセキュリティ設定」の欄（黄色の欄）と合わせるようにしてください。
- 「Windows Server 2012/2016/2019セキュリティレベル」の欄は、ブラウザでセキュリティレベルを高 / 中 / 中低 / 低とした場合に、各項目がどのように設定されるかを示しています。

セキュリティの設定項目	設定値	Windows Server 2012/2016/2019セキュリティレベル				Goldfire Administratorにおけるブラウザのセキュリティ設定	
		高	中	中低	低		
.NET Framework依存コンポーネント		高	中	中低	低		
Authenticodeで署名したコンポーネント	ダイアログを表示する						
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●	●		
Authenticodeで署名しないコンポーネントを 実行する	ダイアログを表示する						
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●	●		
ActiveXコントロールとプラグイン		高	中	中低	低		
ActiveXコントロールとプラグインの実行	ダイアログを表示する						
	管理者の許可済み						
	無効にする	●					
	有効にする		●	●	●	●	「中」と同レベル
ActiveXコントロールに対して自動化にダイ アログを表示	無効にする	●	●			●	「高」・「中」と同レベル
	有効にする			●	●		
スクリプトを実行しても安全だとマークされ ていないActiveXコントロールの初期化と スクリプトの実行	ダイアログを表示する				●		
	無効にする	●	●	●		●	「高」・「中」と同レベル
	有効にする						
スクリプトを実行しても安全だとマークされ ているActiveXコントロールのスクリプト の実行	ダイアログを表示する						
	無効にする	●					
	有効にする		●	●	●	●	「中」と同レベル
バイナリビヘイビアとスクリプトビヘイビア	管理者の許可済み						
	無効にする	●					
	有効にする		●	●	●	●	「中」と同レベル

セキュリティの設定項目	設定値	Windows Server 2012/2016/2019 セキュリティレベル				Goldfire Administrator におけるブラウザの セキュリティ設定	
		高	中	中低	低		
署名済みActiveXコントロールのダウンロード	ダイアログを表示する		●	●			
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする				●		
未署名のActiveXコントロールのダウンロード	ダイアログを表示する				●		
	無効にする	●	●	●		●	「高」・「中」と同レベル
	有効にする						
Microsoft VM		高	中	中低	低		
JAVAの許可	Javaを無効にする	●					
	カスタム						
	安全性-高		●			●	「中」と同レベル
	安全性-中			●			
	安全性-低				●		
スクリプト		高	中	中低	低		
Javaアプレットのスクリプト	ダイアログを表示する						
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●	●		
アクティブスクリプト	ダイアログを表示する						
	無効にする	●					
	有効にする		●	●	●	●	「中」と同レベル
スクリプトによる貼り付け処理の許可	ダイアログを表示する						
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●	●		
その他		高	中	中低	低		
IFRAMEのプログラムとファイル起動	ダイアログを表示する		●	●			
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする				●		
Internet Explorer Web browserコントロール のスクリプトの許可	無効にする	●	●			●	「高」・「中」と同レベル
	有効にする			●	●		

セキュリティの設定項目	設定値	Windows Server 2012/2016/2019 セキュリティレベル				Goldfire Administrator におけるブラウザの セキュリティ設定	
User Dataの常設	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●	●		
Webページが、制限されたプロトコルをアクティブコンテンツに使用することを許可する	ダイアログを表示する		●	●	●		
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする						
アプリケーションと安全でないファイルの起動	ダイアログを表示する		●				
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする			●	●		
サイズや位置の制限なしにスクリプトでウィンドウを開く事を許可する	無効にする	●	●			●	「高」・「中」と同レベル
	有効にする			●	●		
ソフトウェアチャネルのアクセス許可	安全性-高	●				●	「高」と同レベル
	安全性-中		●	●			
	安全性-低				●		
デスクトップ項目のインストール	ダイアログを表示する		●	●			
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする				●		
ドメイン間でのデータソースのアクセス	ダイアログを表示する			●			
	無効にする	●	●			●	「高」・「中」と同レベル
	有効にする				●		
ファイルのドラッグ/ドロップ、またはコピー/貼り付け	ダイアログを表示する	●				●	「高」と同レベル
	無効にする						
	有効にする		●	●	●		
ページの自動読み込み	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●	●		
ポップアップブロックの使用	無効にする			●	●		
	有効にする	●	●			●	「高」・「中」と同レベル
より権限の少ないWebコンテンツゾーン Webサイトがこのゾーンに移動できる	ダイアログを表示する				●		
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●			

セキュリティの設定項目	設定値	Windows Server 2012/2016/2019 セキュリティレベル				Goldfire Administrator におけるブラウザの セキュリティ設定	
		高	中	中低	低		
暗号化されていないフォームデータの送信	ダイアログを表示する	●	●			●	「高」・「中」と同レベル
	無効にする						
	有効にする			●	●		
異なるドメイン間のサブフレームの移動	ダイアログを表示する						
	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●	●		
拡張子だけでなく、内容によってファイルを開くこと	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●	●		
既存のクライアント証明書が1つ、または存在しない場合の証明書の選択	無効にする	●	●			●	「高」・「中」と同レベル
	有効にする			●	●		
混在したコンテンツを表示する	ダイアログを表示する	●	●	●	●	●	「高」と同レベル
	無効にする						
	有効にする						
ダウンロード		高	中	中低	低		
ファイルのダウンロード	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●	●		
ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示	無効にする	●				●	「高」と同レベル
	有効にする		●	●	●		
フォントのダウンロード	ダイアログを表示する	●				●	「高」と同レベル
	無効にする						
	有効にする		●	●	●		
ユーザー認証		高	中	中低	低		
ログオン	イントラネットゾーンでのみ自動的にログインする		●	●			
	ユーザー名とパスワードを入力してログオンする	●				●	「高」と同レベル
	現在のユーザー名とパスワードで自動ログオンする				●		
	匿名でログオンする						

CYBERNET

サイバネットシステム株式会社
ITソリューション事業部

〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフトビル
TEL: 03-5297-3269 FAX: 03-5297-3637
e-mail: Goldfire-support@cybernet.co.jp
<https://www.cybernet.co.jp/goldfire/>